

東日本リアリズム演劇会議機関誌

# 東リ演

東・西リ演 総 会 合 同 決 議  
66年セミ・総会メモ 黒沢 参吉  
東リ演セミの感想 こばやし ひろし  
舞台美術分散会から 若尾 正也

ゼミナールに参加して 劇団すがお  
第4回総会に参加して 劇団やまなみ  
プロック活動から（中部・関東・東北） 演研ほのぶ  
仲間の活動から 名古屋電通サークル  
北海道演劇集団のたより でくのぼうの会  
むぎの会

はぐるま・書けない黒板観劇記 沢田 靖一  
東西南北

・小形式戯曲特集・  
小選挙区制を通したら 京浜協同劇団  
江戸っ子八っあん 舞芸小劇場  
もえ上るベトナム解放の炎 劇団労働芸術劇場  
イエンの手紙 京浜協同劇団  
ベトナムの炎は消えない 劇団はぐるま

5

1966年12月

## 侵略戦争反対ベトナム人民支援の決議

アメリカ帝国主義は、六月二九日よりのヘノイ、ハイフオン爆撃につき最近では非武装地帯へも野蛮な侵略を拡大し、子供や婦人や病人を含めた非戦斗員を殺りくりしております。アメリカ国民も加えての侵略反対とベトナム人民支援の声が世界中で高まる中で、ますます狂暴化するこれらの侵略行為は、ジョンソンらの「平和」がにせものであることを証明するだけでなく、世界の良心に対する挑戦であります。平和と独立を求める人々が、「それ故に殺される」事態を私たちは決して許すことができません。

しかし、国内においても、独占資本と日本政府は「ベトナム和平」を唱えつつ、一方で原子力潜水艦の「寄港」を許し兵器生産、輸送に協力し、自衛隊の増強派兵を策動して、アメリカ侵略者の第一の手先となつており、そのため、わが國の平和運動、労働運動に分裂をもちこみ、小選挙区制をおしとおして、國民の独立、平和、民主主義と生活擁護の切実な要求を圧殺しようとしています。

米日反動の思想一文化の支配をうちやぶり、日本の現状を変革する武器としての新しい演劇を、つくり、ひろめるために結集した私

たち、東・西リアリズム演劇会議は、結成以来、それぞれの地域を拠点に観客大衆との合作によつて、少なからぬ舞台をつくりだしました。

今日、アメリカ帝国主義の侵略をやめさせ、祖国の独立と平和のため勇敢に斗つているベトナム人民を世界の良心と連帯して支援することは、とりもなおさず日本のあかるい明日を呼ぶことであり、そのための演劇を生産し、広汎な観客におくりとどけることは、私たちが國民と歴史から付託された演劇芸術家としての任務であると共に大きい喜びであります。

私たち日本の東と西で民族的民主的演劇の創造普及の運動をすすめている両会議は、その総会に結集した傘下三二劇団の総意によつて、右にのべた緊急な課題をはたすため、相互の成果をもちより交流を深める中で、演劇を武器に共同してたかう決意をかためると共に、すべての演劇団・サークルがそれぞれの場で、動らく人々民主的文化的諸組織と結びあつて行動にたちあがることを期待するものです。

一九六六年八月二二日

東日本リリアンズム演劇会議  
西日本リリアンズム演劇会議

## 六六年・ゼミ・総会メモ

黒沢参考吉

「東リ演ニュース」一五号は、八月二〇・二一・二二日、静岡でひられた第六回合同演劇セミナーと、第四回東リ演総会の実務的なまとめを報告してくれています。それによると、ゼミの参加集団は二八団体、人員は一五七名であり、東リ演以外から、劇団山形、こまくさ（山形）、ほのあ（郡山）、ひまわり（福井）、やまなみ（甲府）凸版印刷、人民劇場、シエル石油（東京）よこはま青年座（横浜）、わかもの座（清水）、電通（名古屋）、オガホ（栄名）の一、二集団が参加してくれたことがわかります。

困難な条件一とくに旅費の高騰という事情をおして参加されたなかまの期待に、充分こたえ得たかどうかは、主催したわれわれ東リ演の最大の関心事であって、この小文もそのおもいを起点にしたためるわけです。もっと腹をわって云えば、期待の大きさに較べると得られた収穫の方が小さかったのではないか、という懸念がのこります。

一般的に云つて、われわれの劇団活動は三六五日休みなく続けられており、創造上の組織上の諸問題といふものは、その中であることはクツキリと具体的に、あるいはボンヤリと潜在的にあらわれる、それを一日や二日のセミナーへもちこんでみても、即座にスカツと解決されることなど殆どあり得ない訳で、したがつて期待が外れ

ても、それは土台期待する方に無理があるのだから一と割切ることもできるし、大体そういう落着のしかたをしていいのではないか、とも思ひます。

しかし、もう一つおして云えば、一般的には期待に外れがちなゼミナールを、何とか外さない中味のものにする、というのが東リ演としての当然な課題にならなければ困ります。

今回のゼミナールを企画した東リ演運営委員会では、(1)従来のセミで、孤立して活動している集団が、多くのなかまの実態を知ることにより大きい精神的助ましをうけたと、(2)効用から、もう一步前進した内容のものにしたい。(3)それには、主として組織上の問題中心だった今までのやり方を、ある程度加味しつつも、(4)創造上の学びあいに重点をおいた計画をくもじと話し合ってきました。

これには、例年のゼミナールで若い劇団、新しいなかまの悩みの主として聴き手になってきた歴史の長い劇団、いわゆる中堅と呼ばれるメンバー以上の層の希望がおりこまれた、ということもあります。

公開稽古というプランは、右の考え方の上につくられ、テキストにはブレヒトの「第三帝国の恐怖と貧困」からという意見などもく

ぐってへ巣ばなれ▽に落着し、参加集団も五つ位考えていたのが三つになりました。

この企画がよかつたか、悪かつたかーを全体の反応から判断するデータが手許ないので、いくつかの意見をもとに考えてみると、

次のようなことがでてきます。

- (1) 稽古のプロセスを見あうということは、大変有効であるけれど、たとえば山崎演出がとった役の内的な行動線の把握を先行させるやり方と、こばやし演出の外面にあらわれるものを手がかりに貫通行動の線をつかませるやり方を、方法上の二極ととらえ、あれがこれかになりかねないーそこに問題がありはしないか。事実「こばやし演出の強烈なやり方に魅力をかんじた、役者は演出がああいう風にひきだしてくれるのを期待している」という意見と、「あれでは自分の創造性は失われる、役者が稽古場にもつてくる創造がまだ微弱な場合、あの調子でやられたら、それはケシとんでしまって演出の人形になってしまふ」という意見がきかれました。
- (2) 演出者がズバぬけた能力をもつていない場合、稽古過程は俳優との協同作業である、名古屋電通の稽古は、演出の志向するものが演技者によく理解されていらない傾向があつたが、それでも稽古内容の当否は完結した舞台で判断されるべきであり、たとえば演出者のダメが基本的なものに終始していくとしても、つくられた舞台がよければそれは方法としても正しいことになる。従つて、公開稽古ではなく、ゼミの場には完成した舞台をもちより、その評価で討論した方が有効(例として、はぐるまのヘトナムの炎は消えなべ▽上演)だという意見になっています。
- (3) たとえば、作品の欠陥までふくめてへ巣ばなれ▽の稽古をす

するる姿勢が乏しく、ソツのない練習風景を再現したり、思いつき程度の技術指導では、創造中心のセミナーとはいえないし学ぶものは少なかつたーという意見は、テキストの戯曲を「もし自分の集団で上演するとしたら」という読み方をしてきたところからだされています。

以上の意見は、全体の一部分のランダムな列記にすぎないし、又たのは勿論です。そこで今後のゼミナール(東り演としては、次回からプロツク単位で実施する方針)をみのり多くするために、全劇團が参加したなかま一人一人の意見をだしあって総括的な意見を運営委員会に反映してくれることが望ましいし、同時に事務局は運営委劇団が中心になって、なるべく早く早く集約をだせるよう援助する必要があります。

分散会の報告を各チーフにおねがいしたが、それが一つも集まらなかつたのは、全体会の冒頭の口頭報告で充分ーという事だったのかも知れませんが、それはちがうようにおもいます。第三分散会についてだけ、別に出しても無意味なので用意した原稿をここに挿入します。

第三分散会の参加集団一五、人員二五名、討議時間は約二時間。要領よくまとめてくる内容なので、次のように列記してみる。

(1) 演技者としての能力をたかめたいーという要求がつよい。ごくあたり前のことだが、この要求が集団の新旧、経験の浅深をこえて全員のものとナマナマしく感じられたのは、今回がいちばん強かった。このことからは次のような問題がひきだせるだろう。

第一には、観客の要求そのものがたかくなっているということ。

この中には、全国的な労演組織のひろがりによつて、専門劇団の舞台が普及していることや、テレビドラマを見る機会が増加していること等で、それと対比される側面もあるが、より重要なのは、状況のきびしさが一回繰る芝居への期待を観客の中で大きく育てている、という側面だ。経済的にも時間的にもとりのない働く人々の選択はきびしくなり、観ても飽くともいじょうなものは観ないし、主題はいいが下手クソだといった舞台ではこの人々を掴むことができなくなってきたこと。

第二には、こうした観客の要求にこなえなければならぬことえたし、とう欲望が若い集団、新しいメンバーをふくめて、一定の活動をするする広い層のものになつていているということ。「壁にぶつかつてくる」という表現が何度も使われたが、打開しなければならない壁が先駆創造の質の向上におかれている。これは、組織問題が中心的になつてゐた一、二回前のゼミと比較して、大きい変化といえよう。

(2) 演出者のデモンストレーションに、強烈な刺激を受けた。

これは前夜と午前中におこなわれた三集団の公演稽古での、とくに立稽古に対する山崎、こばやし兩演出のアドバイスへの反応である。

両者のあの限りでの方法を、内からのつくり方、外からのつくり方と対置させて捉えるのはやや急だが、こばやし演出のいわば手どり足どりのやり方が、演技者は「理解」していないのではないか、「やれ」ないのであり、口うつしでフレーズやトーンを変えさせるながら役づくりのポイントを把握させるとどう論理にたち、経

験ある演技者による新しい演技者への「特別訓練」を可能にしていく点は、とくに若い集団につよい刺激を与えたとみられる。

たゞ、あらした演技者の一挙手一投足にねばりつよい示唆を与えていくやり方が、大変強烈に印象づけられると同時に、もし自分があらう形でやられたら、何故そらするのかを追う前に、演出者のデモンストレーションの形が人形似せるだけの人形になつてしまはしないか、とう危惧もいくつかだされ、内からと外からのつくり方の統一がのぞましく、と話しあわれている。

一人の演技者がそだつためには、勉強によつて自己をどう創造的にふくらませるか、生活の中から人間としての魅力をみがきだし、テクニツク以上の深い思想を身につけるかーその主体的な実践と、集団が眞に血のかよつた団結・連帯で、そのひとりひとりを育てていくかーの問題が、演集やはぐるまの指導部からだまされた。時間が乏しいため充分ふかめられたとはいえないが、俳優各自のカルテーと処方箋が必要という若尾(陸)さんの発言や、「特別訓練」がめざすものは、一面的な把握しかできない若い演技者に新しい視野を与えることだと田村氏の発言も、以上の原則的なものをぐぐときくと、さりげなくきくことではない内容であった。

(3) あたらしく集団の困難は、小さくない。時間のことばかりから、新しく集団、若いなかまのかかえている困難が大きいこと多くようだが、事実その制限がなかつたら、又参加者が充分発言できたら、新しい集団、若いなかまのかかえている困難が大きいこと多いこと、ここに並べきれぬほど具体的にでてきたりうとおもう。概括していふと、指導部が未熟だということである。組織上のことでは、代表者ひとりはとても運営委員会の集団指導体制がつくれないか弱いかであり、創造上のことでみても芸術指導部が同様な

である。

郡山のほのほから、演出者もどん栗の背くらべの中からだすので、

一種の集団演出になり、いわば強力な指導性が欠ける」という悩みがだされたが、この方が組織上の代表者が即演出者である上、経営の元締めと劇団倫理のお召付役を兼ね、照明のしこみに口をだした

上、役の一つをやつてはいるといふ状況よりはるかに進歩している。

一本の芝居つくりはどうにかすすめられても、創造の基本部分の強化を日常的にはかる活動があこせず、たとえば創作劇をつくりだすことができず、演技の基礎訓練がつまれず、系統的な學習が保証されない。観客との結びつきも公演一回ごとでたち断れて、創造一普及の有機的な連帶をつくりだせない。

かぞえればキリなくあるし、直接の要因もキリなくあげられるが、

なにはともあれ責任をもたねばならないのは現在の指導部である。

どうしたらしいのか。

(4) 自分の集団を発展させる主力は、自分たちの中に存在する。この言葉は、浜松からつかせの若いたかまからだされて、皆が共に感した。

もちろん、われわれが先進に学ぶものは大きいし、このゼミの目的も東り演のつくられたのも、相互の学びあいを保証して、日本の働くものの演劇の力柄をつよめていくためである。

しかし、集団を変え観客との関係を変えていく、主体的な力は集

団とそのひとりひとりに内在するものだ。現在、一定の力をもつ集団もあらゆる試行錯誤の上にそれを積んできたのであり、その基礎的力をもつては集団の相互信頼一團結で生んだもので、先進からにせよ直移入は不可能だった。演出者の能力がかりに不充分であっても、

集団の信頼はそれを高めるし、その関係が集団そのものを高めるだ

ろう。

こうした素地に、他から学びとるもののが根づいて有効な働きをするーそしてこれこそ、のぞましいわれわれの連帯といえよう。

#### (5) 私の感じたこと。

はぐるまの田村氏が、所用で新潟へ行く機会があるので、麦の会へ寄つてできるアドバイスはましよう、と云うのをきいて、いまの東り演がたとえばプロツク活動の強化ーとくに研究会、観劇交流一や「東り演」誌の活用とあわせて、こうひう道筋を縦横につくつていけたら成果が大きいとおもう。東り演は、そういう血のかよつたあなたかいつながり方でひろがっていくのだろう。

小さいなり若いなりに、集団のプログラムをくまなくてはいけない。一〇人の集団を二〇人にするためには、無計画では、又点検をなしでは実践がおこせないのであり、この点では「敵」がわの計画性

合理主義に学ぶ必要が大いにある。プログラムが主軸ぬきの一般的にもわれわれに欠けてはいる資質だが)が計画を裏づける柱だろう。

勿論これは、小さくも若くもない私じしんの劇團についても同様であつて、この実践が、東り演の果たすべきしどとの内容をも一層くつきり浮かびあがらせる筈だ。

さて、そこで、第六回合同演劇セミナーを、私はつきのように総括してみます。

(1) 観客は、働くわれわれがすぐれた舞台をもつと沢山生産するよう、引きつづき期待しており、その要求の集約点は自分たちの生

活とたたかいで窮屈した演劇だと見える。

(2) 劇団は一意こうした観客の要求をつかんでいるが、それでも直接媒体としての客席との相關にとどまり、広汎な地域の動く人々のイメージまでを展望しきれていない。

(3) われわれの創造の水準にはハツキリ劇団差がある。特長差ではない一高低の落差だ。その主因は創造の根底がものまねに発していることと、誤った地域主義にある。

(4) 創造組織としての劇団づくりが、目的意識的、計画的、集団的なされず、政治スローガンが創造スローガンに代行されるような混雑をのこしている。

(5) しかし、われわれをとりまく情勢と観客の要求の発展の中で、劇団の体質強化と、創造の向上を、遠慮によつて獲得しようといふ願望がすべての劇団に共通してゐる。

これはセミの中と、以上、その前後の経験をセミに照応した内容です。甘い希望的観測にならないのはそのためだが、このままでは舌たらぎなので、すこし補足します。

ものまねといふのは、前掲の東京専門劇団やTV演技のそれからのといつもりです。しばしばウソをみせられることがあります。自分によつてたつ基盤がアヤフヤなまゝ、結果としての演技の形がいだけをこねあげてくるウソです。演技の話は、別の人によってもらう方が妥当ですが、演技とはウソとのたたかいで人間の真実を自分のなま身で舞台の時間空間へ生かす作業でしよう。自分が基盤ならものまねを入れる余地はないし、それをスリかえたのでは、ものはや「われわれの演技」でも何でもなくなりはしないのか。

演技のウソと本当は、ごくあたりまえの観客にもバツとわかるも

のでしよう。ただ演劇を、おしゃいーエソラゴトとみるとことに馴らされてきたその人達は、あれはウソだとわかつても、おしゃいだからウソでもいいのだろうと納得してしまう。そして次に誘われたとき、たとえば別に会合があればそっちへ行つてしまう。なぜなら会合は本当のことのためにあるので、ウソのおしゃいより意味があるのだから。

拙劣としても、ものまねやかりものでない、自分の生んだものは本ものだし、それがわれわれの演劇のピラミットの礎石です。労演やTVドラマのディレクターに文句をいう筋合にはありません。ものまねはやる側の責任です。螢光灯かもしれないが、いくつかみたわれわれの舞台の腐敗現象です。

「民衆がことばをじぶんのものにし、ことばをつらねて一つながらの章句として表現し、だからもめずりうけなかつた形のない財産を一つゆたかにしていくことは、とりもなおさず民衆が思考と体験の領域をひろげていくことである。生産するもの、生活するものの側にことばをとりもどすことである。」詩がすぐれた作品になるためには現実的体験を詩的体験にたかめていくことが必要である。現実的体験を詩的体験にたかめるのは方法であり技術であるが、基本的には表現思想の問題だといふべきだろう。」「民衆の書き手は、技術的にもすぐれた詩的個性としてのびしていくことがぞましいが、それだけでなく、上手下手をこえて民衆の詩に期待されるのは、この体験の質の変革ということであると考える。」(詩の中にめざめる日本一民衆は詩人である—真壁仁)

誤った地域主義では、言葉としても熟していませんが、かりに私の劇団が京浜で、川崎でという集中のしかたを、まわりと隔離し

孤立してやつたら、必ず方向を誤まると思ひます。

すでに労働者が、居住地と工場の往復という限られた生活の中でメコン河のふくらみやワシントンの高い舗道やケニヤのコバルトブルーの空を知覚しているとさう、アクトユアルな認識がないと、私たちには公演パンフのファイルに追憶をなつかしむだけで、明日の旅程を見失ってしまいます。

「さあ、わたしの手もとに、直線距離で三キロから一二〇〇キロにまでおよぶ範囲の、多くの高校から送られてきた学校新聞や雑誌の類がある。そしておどろくなれば、それらはおたがいに、またわたしの学校の新聞などと、名称を書きかえてほんと区別のつかない内容と主張をそなえている。同じような場で、同じようなことに苦しみ、同じようなことでばかりを感じている、三百万の高校生。それがひとりひとり、孤立と不信とさへぎだらだち悩んでおり、ひとりひとりのエネルギーを消耗し、個性をゆがめ、ひとみを暗くしていることはどうしたことだろう。ただ、話しあっていっしょに考え、いつしょにしごとをする一とつた習慣をもたないところに起因するだけなのだが……。その習慣をもたせないもろもろの条件、これにあえて挑戦するところに、日本の若もの・高校生のジャンプのためのふみきりがあるのでなかろうか」（高校生の日記・中根道幸）

働くものの演劇が自覺的な運動になつてからゆるくみても二〇年、きびしく考えれば安保斗争以後といふ出発の経緯のなかで、われわれの総体的な力はけつしてつよくない。「はぐるまをみてくれ」とばかり云つてはいられません。しかも、われわれを支える観客の方は待つたなしに成長している。そこで、われわれの方も、桃太郎の

ようにメキメキつよくならなければ、鬼ヶ島へも行けまいわけで、どうしたらメキメキつよくなれるか。前掲の文中に提起された「話しあつていつしょに考え、いつしょにしごとすること」こと。それをはばむものに挑戦し、それを習慣にすること。ここに、働くものの演劇のジャンプのためのふみきりがあるし、こっちの田へ水をひけば、東リ演の原点があるといえます。

せまじ地域主義は、集団で話し合い行動するところより、個人リーダーの指導性が権威をもつてゐるところに表出しやすく、言葉ではともかく実践の上では、自分の地域を文化不毛と考え、観客を低くとおもひこみ、集団への信頼がよわく、批判を厭う傾向をあらわします。

山崎事務局長が総会で、「われわれの真の拠点は東リ演である」とのべたことは、拠点の思想をセクショナルな地域主義にスリ返してはならぬ、といふ意味で大切だと思いました。（4）にのべたことは、大変難しい内容を割切つてしまおうとしています。私の劇団では今のところ、政党員とそうでないメンバーとのぞましい関係がつくられてゐるとはいえません。それは一つづいたみとおされた上で、いつしょに考えいつしょにしごとする関係を淺くしていこうとしています。政治課題と芸術課題の関連と相違を明確にすることは、その角度からも必要な訳です。

第四回総会の中味について、充分触れるゆとりはなくなりました。二日夜の予備会議では、一四劇団のぶつかつてゐる当面の問題として、おおよそ次の八点がだされていました。

(2) 地域文化―民主諸活動との結合の弱さ

(3) 労演との結びつきの問題―劇団指導部が労演の中心活動家と  
いう事例。

(4) 観客の減少―広汎な人々の文化要求が正しくつかみきれない  
ことに起因してそこからくる赤字財政。

(5) 創造上の頭うち一壁

(6) 東京における劇団の活動の位置づけ

(7) プロック活動の停滞

(8) 税務署の攻撃

二二日、岩田直二西り演議長あいさつ。

西り演総会は、八月一三、一四、四国松山でひらかれた。この一年東り演はあたらしい創作劇を生みだす面で大きい成果をあげている。西り演についていえば△天満のトラややん△身檢△テントからの報告△などをはじめ、各劇団とも上演活動をひろくのばした点に特長があり、中でも山口のはぐるま座は一〇人内外の編成で三本立ての公演をくみ、中国九州全域の巡回で広汎な観客をつかみ、地域演劇サークルに大きな影響を与え、同時に財政危機をのりきった事実を高く評価し、今後の中心課題としてプロック単位での研究会活動をつよめたい。また東からの要請である合同機関誌発行については、当面「東り演」誌の固定拡大をはかりつつ、合同発行のための準備会議をひらくことを明らかにし、東西両り演の連帯によって日本のアリズム演劇の発展をかちとろう、と結びました。

ついで黒沢と山崎事務局長から、基調報告・運動方針案(「東り演」四号掲載)の補足説明あり、以後おおよそ情勢とわれわれの任務、組織の強化、創造の発展の三つにわけて前述八問問題点をふくめ

た討論。

第一点では、アメリカ帝国主義のベトナム侵略が世界の良心をふみにじって強行され、日本では政府が獨占と共にこれに加担している緊追した現実の中で、まずわれわれの斗争の拠点である東り演の結成の目的―趣旨を全劇団が改めて学習する必要をみとめました。

ひとつには、東り演創設以後参加したメンバーが各劇団とも増加しているからですが、古参の部分もこの点ではけつして充分という訳ではありません。

アメリカの野蛮な侵略に反対しベトナム人民のたたかいを支援する創作は、はぐるま、労芸、京浜などから生まれているが、これを更に増強すると共に、戦争協力のあらわれである首切合理化・低賃金高物価反対、基地撤去、原潜寄港反対、小選挙区制・憲法改悪反対等の斗争の武器としての演劇の生産が、早急に大量に必要である。とくに情勢を先どりできる政治的能力を身につければならない」といえよう。

もちろんこれと同時に、児童をふくめた広汎な国民の民主的な、民族的な要求にこたえる舞台の生産がゆるがせにできないことは改めて強調するまでもないでしよう。

第二点、組織上の問題では、東り演の民主的運営、決定の積極的な実践による団結の強化という柱を中心にして、  
①プロック強化のために、先進的な中部Bの活動経験にまなんで、観劇交流、学習会、クリエーション等をさかんにし、年一回プロック内劇団サークルの結集で合同セミナーを実施すると同時に、東北、北陸、中部等遠隔の劇団の孤立化を防ぐ方策をたてる。  
②機関誌「東り演」の役割を重視し、運動の前進のため活用する。

(4) プロトク強化のために、先進的な中部Bの活動経験にまなんで、観劇交流、学習会、リクリューション等をさかんにし、年一回プロトク内劇団サークルの結集で合同ゼミナールを実施すると同時に、東北、北陸、中部等遠隔の劇団の孤立化を防ぐ方策をたてること。

(5) 機関誌「東リ演」の役割を重視し、運動の前進のため活用する。加盟劇団全員の必読をめざし、誌代の完(前)納によって財政を確立すること。

(6) 観客との結合によって一定の成果をあげている劇団を、東リ演に加盟させる工作の積極化——地域から特定の劇団の加盟を不注意にいそぐと、地域の統一をこわす危険があるので慎重を要するが具体的に目標をたてて、正規にはたらきかけること。

(7) 西リ演との連帯提携を強化するため、当面「東リ演」誌の西での固定、寄稿活動の活発化をはかり、合同誌発行を準備すること。才三点、創造上の問題では、われわれの創造の向上、劇団組織の強化が、あくまで深く広い普及活動とのかかわりで、すなわち観客の参加によって果たしうるという柱をすえて、

(8) プロトクごとに、東リ演内外の講師をむかえての指導者講習会や、演出、演技、舞台技術の研究会をひらき、相互観劇を一層有効にするため稽古場交流、批評会をせかんにすること。

(9) 機関誌に創造活動報告、劇評、問題提起、戯曲作品等を集中し、創造理論の貧困の克服につとめる。「東リ演」誌による学習会を実施すること。

(10) 例年の創作部会を恒常的に发展させる意味で、岐阜の着手した作家集団の組織化にまなび、プロトクごとにとりくむことと、又

現在のきびしい状況がもとめる戦斗的な舞台を全国的に展開するため、各劇団と作家たちに統一した政治課題による作品の生産を要請する必要のあること。

こののも、予算のこと、会費改定のこと、役員のこと。(東リ演

西リ演総会より提案された「侵略反対ベトナム人民支援の共同決議」を全員の拍手で採択しました。

最後に議長に四選されたので、私が若干喋っていますが、三ヶ月後の現在点での感想をのこされた紙数で書いて、メモを閉じます。

一九七〇年がたたかいのメドだという認識があって、たとえば京浜でも長期計画をそこへ向けてみはじめています。これは正しいし、各劇団の活動計画をトータルしたものにからめて、東リ演もまた一定の長期計画をくみたい、と考えます。当然、西リ演にもこの考えをつたえて、いっしょにたたかっていくのが有利だとおもいます。

一九七〇年にむけての出発が、すでにはじまっている(勿論敵がわでも)という事実を、改めて力説する必要はありませんが、ことの全貌が明らかになる前に、國民にそれを正しくアピールしていく役割は、労働者であつて芸術の生産者である私たちがなうものでしょう。一九六〇年をはるかに下廻るもりあがりにしかなるまい」という宣伝が、ひろく流されているのはご承知のとおりです。

劇団員の倍化を、組織の整備を、財政の確立を、観客の増加と組織化を、レパートリーの充実を、そして東リ演を、一九七〇年にむけてプログラム化しましょう。それ自体がわれわれの戦斗であり、

敵への打撃です。

東リ演の機能を發揮するためたるべき柱は一つ。一つはプロック活動、一つは機関誌活動です。このこと、今年に入つて総についた活動といえます。

総会前に東海と中部が、総会後に関東と東北のブロックが相ついでうござました。しかし、いまのところB活動の内容を、他のブロックや集団に伝達する方法はこうじられていません。B会議、交流会などにはからずレポーターをおいてほしい、その席に参加していよいよ劇団員に報告する責任をはたすと同時に、そのコピーをニュースなり機関誌におくる習慣をつけてください。

機関誌「東リ演」については、このオ五号から全劇団の討議を要請します。東リ演係が中心になって、この内容で満足なのかどうか、最低ハガキ一枚の反応をかえしてください。

くりかえすようですが、いま一四劇団の活動をタテヨコにつないで東リ演として強めていく、それを通して日本の働くものの演劇全体の発展をはかっていく上で、もっとも有効なはたらきをするのが機関誌です。われわれのコミュニケーションの手段としては、唯一の

武器ともいえる訳です。われわれはこれを内容として充実させ、多くのなかまに普及させる鍵を自分の手に握っています。

しかし、機関誌の意味がそういう重みでうけとられている、とはいいません。このオ五号も「ゼミ・総会の総括」号として、あの三日間の収穫でみたされる計画でした。原稿を依頼する段階では予定の頁数でおさえきれないという論議を編集グループはかわしました。けれど、原稿が集まらないために、発行は一ヶ月おくれ、その上誌代が集まらないので総会で確認されたオ六号年内発行は不可能になりました。

疲れてしまっても、あきらめてしまつてもいけないのだともいます。とにかく出し続けることが重要だとも、総についたばかりの今年とにかく五号出せたのだからともおもいます。このへんのところまでをふくめて、討議してみてください。

しことの山の中でのメモで首尾一貫していません。経過報告としても不充分ですが。  
なかまの健斗をいのります。

## 東リ演ゼミの感想

こばやし・ひろし

今年の東リ演ゼミの分散会での印象といわれると、卒直にいつて成功であったのか、なかったのか自信はない。何といっても創造問

題についてのゼミナールは始めてであるから、ここから始めなければならないという所だろう。技術的には縦割りで、しかも三十人以

上としうことが発言を片寄らせたようであるが、根本的には創造という課題の重さによるといつていい。

「創造についてどんな悩みでも、意見でもいいから出して下さい」といってもなかなか出ない。いや、出しようがないのか知らない。これが組織論になり、劇団活動と生活のような問題になるといふらでも出せる。「こんな初步的なことを云っては恥しい」ということもあるし、また、劇団内で解決する問題ということで出して来られないのかも知れない。むろん、三劇団の公開稽古は具体的だから活発に出る。しかし、自分の劇団での問題となると、どうも話が停滞するのである。

創造に関しての討論が始めてであるという経験不足もあるが、どうもそれだけではないらしい。少くとも俳優であり、演出者ではいる舞臺美術家である以上、公演で観客とびたつと思があつていなかつはいらいらする筈である。私なんか、もう落つけない。幕間に舞台に飛んでゆくと、俳優も蒼白たるものである「乗つてないでしようどうしてだろう」ということになる。どこに問題があるか、演出者と討論するが、その晩は眠れないである。練習中でもそうだ。どうもいけないとなると、その晩、あれや、これや考える。公演が近づけば必死である。作品の欠陥、演出の欠陥、俳優の欠陥、舞臺美術の欠陥等々、洗いざらい再検討して、何とかしなければならないと焦るのである。考えて見れば、創造というのは根本的には、観客との対決の場で、舞臺感覚を鋭くする以外ないと思う。

しかし、すべての人が、成功も失敗もあくまで、それを経験していく以上、束り演の討論に反映しない者がいると思うのである。む

ろん、作品批判、演出批判、俳優批判が出るべきである。それが出ないということは、劇団の粹を越えた東リ演の場でなくとも、劇団内でも出されていないということではないだろうか。

#### 批判のない所に創造の発展がないとすれば基本的には劇団内で創

造についての批判が自由にだしうる組織でなければならないと思う。なぜなら、批評家の批判以上に具体的で親切で、しかも発展的にならうからである。ところが、それは各劇団とも、組織上の矛盾については、それがなされている。「組織的に考えよ」というのが、私たちの劇団では冗談にまで使われるが、組織人としての個人の具体的な弱点まで、実に大切に、しかも発展的に批判し合えるのである。そこでは人間的な弱さが集団によって厳しく守られているという関係が成り立つ。

ところが創造上の問題となると、すべてが演出者まかせである。演出者は、そのため劇団の権威者でなければならぬということになる。だから演出者は非常に難しい高踏的な論理を開拓しなければならなくなり、より権威的にならなければならなくなる。私は地方劇団の演出者の方が難しいことを云うような気がしてならない。こうなると、創造上の欠陥は、俳優の欠陥であれ、批判できなくななる。「それじやまずいんじやないかな、こうすべきだよ」といえば「演出がこういったもので終りである。それを押せば演出の批判になるので、公演がすんでも、創造を徹底的に批判するということもそのためにできなくなる。

私たちの劇団では公演までは芸術委員会で討論し、こてんこてんに批判される。それにどう答えるか、各創造者は苦しむ。公演がす

めば、全員によって個々の一切が批判し合われるが、まだまだ、この体勢は弱いと思う。

劇团内で創造を徹底的に討論し、さらけだし、劇团の総力をあげ

て批判をぶつけあうことなしに、東リ演での白熱化した討論は生れないのは当然である。これを、どう具体化するか東リ演の各劇團に与えられた今年の課題だと思う。

## 舞 台 美 術 分 散 会 か ら

若 尾 正 也

東リ演ゼミの中で、舞台美術の分散会をもたせて頂きました。といふのは、少し我儘に川崎での運営委で、私が押売したからです。やはり、欠陥が目立ちました。まだ東リ演の中では、舞台美術といつた様な、末稍的な技術問題に立てる状態ではなかったし、とすれば、技術偏重に陥る、弊害を助長したかも知れません。けれど、矢張り、そろそろ、こんなことにも関心をもってよいのではないかでしょうか。

今回の分散会の中で感じたことは、私達のつくって来た演劇が、一面では、精神主義すぎていって——と云うより、精神面では進んでいるけれど、視覚的には——美術だけでなく演技も演出も——まだ充分に力をもっていないということです。それ程、むずかしい事ではありません。

劇團に、夫々、演出者又は指導責任者につぐ、「舞台監督」をもつことです。

分散会に集まつた十数名の中では、演出者又は作者、劇團指導者に匹敵する舞台監督をもつてゐる所は、二、三にすぎません。

作家でも、演出家でも、裏方でも、専問人と云われる技術をもつことが、今后の東リ演の仕事だと思います。

そのことが、演技者は、誰でも出来る式の安易な演劇作りに流れないで、発展するメドの様に思えます。

リアリズム演劇の理念の追求を、おろそかにしてはいけません。けれど、それを盛る、容器もないがしろにしてはいけない時機に来ているのではないでしようか。

地域毎に、正しい理念に導かれた、専問人が居ることを、今の日本の演劇文化——舞台芸術?——が要求してゐる様に思います。今度の分散会を通じて、今后、裏方の養成と、提携を更に呼びかけたいと思います。

やっと、才一歩を踏み出したのですから。

## ゼミナールに参加して

劇団すがお（桑名）

“働きながら、演劇を、わが住むほとりを、開拓しよう。”——これがわたしたち「すがお」の中心テーマです。しかし、二三年前まではただのお題目にすぎませんでした。

内部の問題——意志の不統一、人員不足、財政問題、指導者の欠如など——に目を奪われ、外部とのつきあいは「手が回らない」として片付けていたのです。しかし、一昨年、地域青年学生集会への参加について討論する中で「外部とのつながりをもたないで、内部問題に限って鳩首会談を繰返していくも、解決は得られないし、活動の定着も発展もあり得ない」との結論になり、以後、徐々に他都市の演劇集団や、市内の其他団体との交流をもちはじめたのです。さらに昨年、今年と東リ演「中部ゼミ」に参加する中で、大いに勇気を与えられ、それは一層確信に満ちたものになりました。

そうした経過での今回の「合同ゼミ」参加でした。

開会総会での「今や、われわれの演劇は、アマだからという甘え」が通用しなくなりつつある」という黒沢議長の言葉は、われわ

二人しか参加しなかったので、全分散会に

参加できなかつたのは、とても残念です。

閉会の黒沢議長のあいさつで、

「東リ演加盟劇団を助け、頼ってほしい」と

それが現在おかれている状況を端的に表現しています。わたしたちが桑名で三年前から職場や青年団の仲間と共に催している「演劇祭」の観客動員の状況（漸減）とわたしたち自身の創造のレベルとを思いあわせるとき、とりわけ重要な指摘に思われます。しかも「日本

の新しい演劇は東リ演から生まれる」という力強い黒沢議長の言葉は、その困難の向うにある明るい展望を思わせました。

創造問題を中心にしてえたゼミの中で、公開稽古はいくつかの教訓を与えてくれました。一つの台本の中であれだけの理解、表現の幅があること、それぞれに対応する演出（指導）の方法の実際を知ったことなど、未熟なわたしたちは新しい発見でした。ただ三団体は

多すぎたと思いません。できれば、モデルは一つ位にして、もっと内容を深める——討論の時間は長くして——方が、より有意義だったのではないか。あらかじめ示された

舞台に対しても用意されていたであろう演出プラン等が充分出つくしていないと思うのです。欲を云えば、衣裳、効果、照明等を加え、装置もセットして行ない、多角的に

総合的に討論するのも一案ではあると思いま

劇団やまなみ（甲府）

梅津幸三

今年度総会の「東日本アリズム演劇会議への年内加盟」の決定にもとづいて八月二〇日、二一日の二日間静岡で開かれた「東日本アリズム演劇会議オ六回ゼミナール」へN君と二人でオブザーバーとして参加した。

真夏の暑さをついて、東京から青森まで、

二十八集団、一六〇名を超える各劇団の代表が、会場である井宮公民館に続々と集つてき  
た。

「地域に根をはった働く者の演劇活動」その共通性で結ばれた仲間たちのふれあいは、会が進むにつれて、始めて参加した私たちも何か云わなければ居られないような、親しさと友情と信頼の満ちたものとなつて、強く私たちの胸を打つた。

冷房も何もない、広いだけがとり得の会場だが、板の間にアンペラを數きつめ、静芸の仲間の心づくしの扇風機が七、八台うなりをあげる中で、熱意のこもった討論が始つた。夜七時からのゼミの蓋あけは、困難な職場の条件の中で演劇活動を続ける「名古屋電通演劇サークル」の「巣ばなれ（後半部）」の公開がいこで始まつた。静芸の山崎欣太さんがダメを出し、その演出方法を中心討論をする。討論はきびしく烈しいものだが、仲間としての強い連帯感で、そのきびしさや烈しさを自己の体の中に吸いとつてゆく。お互いの利己心などは全く影をひそめて、この中でつかんだものを、明日からの自分たちの地域での活動の中へ生かしてゆかなければならぬという気はくが、どの参加者の表情にもうかがわれる。

才一日のしめくくり、岐阜のはぐるまの「ベトナムの炎は消えない」は、ベトナムでのアメリカ侵略者の残酷性、それと斗うベトナム人民の苦惱と、勝利への確信を伝えて、

全参加者に強烈な感動を与えた。

宿舎である〇〇公民館に着くと手分けて布団をしきつめ、一〇〇人近い男性がゴロ寝だが、誰一人文句を云うものはいない。静芸心づくしの清えた岳ビル、お酒などに舌つゞみを打ちながら、各劇団の消息に花が咲く。準備よくウイスキー持参の者もあれば、輪から輪へ移り歩く豪の者もいる。然し、よくも芝居の好きな連中がかくも集つたものだと思う。前夜徹夜で仕事を片づけて参加した君は、宴なかばにして完全にのびてしまった。午前一時、静芸の仲間の「明日の集会に備えて消焼しよう」という禁止令がなかつたら、この夜の交流会は、いつ果てるともなく続いたであろう。

オ二日、午前中は前日に引きつづいて「巣ばなれ」の名古屋演劇集団のテーブルゲイコと討論、京浜協同劇団の同作品についての公開がいこと討論を行う。

河野 恵夫

- 14 -

午後、演出演技、舞台美術、組織の三分科会に別れて夕刻まで討議が続けられ、再び全体集会でそれぞれの分科会のまとめが報告され、岩田直二西リ演議長のあいさつの後、黒沢東リ演議長の総括で二日間のゼミの幕を閉じた。

に結集する各劇団の活動とその広がりは、日本本の演劇の中で大きな流れとなりつゝあるということの実感であった。

会場の設営、宿泊、食事の世話とゼミの成功のための大変な仕事を、最後までやりとげてくれた静芸の仲間たちの献身も、静芸の仲間の芝居に対する根性と共に、東リ演という土壤の上に生れ出たものであると思った。

私たちの小さな力も、この流れを更に大きく流れとするための一つの流れとなり得るし、その流れに身を投げ込む中で、私たちもさらにたくましく成長するだろうことを心の中にふくませながら帰路に着いたのである。

演研ほのよ（郡山）  
河野 恵夫

「あと一日ほしかった。」とにかく楽しくて、参考になりました。いろんなコマカイとこれまで聞きたい事が山程あって、それが全部満たされはしませんでしたが、そのいろんな事を自分達で解決してゆくヒントみたいなものを与えられたようで、ヨーヨーチでも自分達の力で歩く事が出来るようになりました。

他の稽古をみたのは初めてですが、今迄出来ないとなると適当にかたづけて「どうせ本職じやないんだから」なんてあいまいにしていた自分がすごく反省させられ、京浜でやつた敬子さんや電通の太郎さんなどマジメな態

度におしえられ心から励ました。

今、私達も協同貸出で巣ばなれをやつています。今迄の様に、郡山だけでなく、全國に自分達をみていくれる人達があり、私達のこの一つの活動が全國に伝わってゆくのだと思ふとグーンと力が湧いてきます。頑張ります、みて下さい。

#### 岸田弘通

六時間の汽車にゆられて、静岡駅に着いたときの活氣ある情景に、やはり田舎の当地との相違を感じつつ目的地の会場へと向ひました。

先ず会場に着いてオ一に感じた事は、各地からの劇団員一人一人のキャリアがあり、我々との相違というかそうゆうものに圧倒された様に思いました。又、私達が初めて経験した公開稽古では大変勉強になりましたし、各分科会での討論も全部自分達のものに思いましたが、耳新しい事ばかりで、つい聴き手になってしまい、聞き出す事なくして、今になって後悔している有様ですが、学んで来た事だけは消化させようと、今、私達の演研は「巣ばなれ」に取組んでおります。

今後はもっと私自身勉強あるいは経験を積なくてはならないという事をゼミに参加して痛感した次第です。

（二日目の京浜協同から学びとった事を少しのではなかと思つて）

私たちの弱点として述べてみます。

#### 高野徹郎

職制や労働者像について、職場の環境や職種のちがいによる感覚的なちがいは出ても当然ですが、おのの立場や思想をもつと明らかにすることが、この演劇の内容を高めるにすばらしいと思いました。

会場につくまで持っていた自分の考えが、いかにちっぽけであり、又幼稚であったかを痛感しました。あのエネルギーな活動に終始圧倒された感じ、でも私達も負けずにやらなくては、と新しいファイトが出てきました。

始めて参加させていただきましたが、本当にすばらしいと思いました。

いかにちっぽけであり、又幼稚であったかを痛感しました。あのエネルギーな活動に終始圧倒された感じ、でも私達も負けずにやらなくては、と新しいファイトが出てきました。

始めて参加させていただきましたが、本当にすばらしいと思いました。

#### 名古屋電通演劇サークル

オ六回合同演劇セミナーの成功を共に喜びたいと思います。今日、私たちのまわりには反動的、頽廃的文化がみちみちています。

そういう中で、働く者の立場にたった演劇活動をしておられる東リ演の皆さんに、連帯のあいさつを送ります。

以上、私たちは二日間のゼミナールから、多くの事を学びとることができました。そして、すごく勇気づけられました。

これは東リ演の演劇活動と、私たちの職場演劇活動が、共に働くものの立場にたち、働く者の演劇創造と、働く者の連帯をめざして歩んでいるからだと思いました。

一タ山崎さんの生まの助言に、素晴らしいなと思つてゐるうちに終つてしまつた、という感じで、その場ではとてもものにする事ができませんでしたが、ひとつのかべは打ち破れさせました。

私たちには今、一月の市民芸術祭をめざしてがんばっています。私たちの演劇を、働く人々がまちわびているという確信をもつて、ともにがんばりましょう。

（M記）

## 第四回総会に参加して

### でくのぼうの会

栗木英幸

私たちの集団が東リ演加盟後初めて迎えた総会から早や一月セミと総会でくり返し強調された「創造を軸にした團結」の重要性を強くかみしめています。というのも、現在私たちは来る十月八、九、十に行なうオ七回本公演「未成年」に全力をあげて取り組んでいるわけですが、今まで比較的少人数出演のレバで進んできた私たちにとって、登場人物が三十人近い「未成年」はそれだけですでに大仕事であり、今まであいまいにすごしてきた弱点が様々な形であらわれてきているからです。稽古への集中度も稀薄で、公演二週間前に一部の必要なキャストを変更せざるを得ない状態です。巾広い文化サークルの性質も持ってきた私たちにとって、今、まさに今、内外両面から「舞台で勝負する創造集団」たることが必然的に最大の支柱となり、要求となつてきているのです。それに応え得て、それが地域の真の拠点となることが、才四回総会を経過した私たちの責任であると思ひます。東リ演運動の厳しさを今さらながら自覚した次第です。

真の拠点劇団となるために、各集団がそれでくのぼうの会内の「東リ演ニュース」に、でくのぼうの会は……といふ具体的な内容まで明確にする必要がありましたが、その前提となる討論・意志統一が絶対的に重要なことだと言えます。現在、どういう状勢で、どういうふうに動きつつあるか、しかもそれを活字からなく、私たちのまわりの観客の生活から学び、そしてその中で集団に何を要求されどういう作品を、どういう舞台をつくることが課題となるのか、——このことを抜きにした計画もないし、こういう討論を全体で深めることができ、岐阜はぐるまにはっきりとあらわれている集団の一丸となつたエネルギーになるのだと強く思います。

中部ゼミ、中部プロツク会議、合同ゼミ、総会のまとめを準備しています。これらの学習討論を通じて、成果を全体のものにし、今後の活動の血肉にしていきます。

とにかく、総会初日に、各集団より出された問題点を、鋭くなつてきていている種々の圧迫攻撃は加盟劇団全體に共通している問題であります。このことは、先の中部プロツク会議でも出されました。私たち集団も、一度「五ヶ年計画」をもち、それにそつて公演、青年劇場運動、稽古場建設等多くの、そして大きな課題をやり抜いてきましたが、運動の進んだ現時点では、計画のさらに本格的ななり直しが必要となつてきています。この計画はもちろん、何年の間に観客を何人組織し、団員を何人にし、稽古場は、公演会は……といふ

### むぎの会

佐山浩

総会とは何か厳めしいものだろうと思つて、しかもそれを活字からなく、私たちのまわりの観客の生活から学び、そしてその中で集団に何を要求されどういう作品を、どういう

舞台をつくることが課題となるのか、——こ

のことを抜きにした計画もないし、こういう

討議を全体で深めることができ、岐阜はぐるま

のではなかった。総会に参加するにこの出発

しかし、「東リ演とはどういうものか」とい

うことを演劇活動をやっていく上で知ったも

のではなかった。総会に参加するにこの出発

点から間違っていたのではないかと思われた。

経験の積んだ人が参加すべきもののように思

われた。総会に参加することによって東リ演

の早わかり、紙の上で話の上で知ったもので身じかに感じられないものであった。前向きの、積極的な意見も出なかつた。

が、それはそれで表面的ではあるが東リ演の活動、その思想、活動から生ずる種々の問題を知つたことで大いに意義があつた。聞くものすべてが新鮮なものであつた。特に活動の中心を創造におく点に素晴しさを感じた。日本にこのようなエネルギー・シン・ユな演劇運動があるのを初めて知つた。

東リ演思想について、思想の三大原則として、一創造、二労働者の立場に立つ、三地方文化と私はとつたのであるが、これら三つは相互に連関しあつてゐるものであろう。これらの思想を東リ演内でも、その他の読者にも浸透させることは読者、特に東リ演の仲間と東リ演との関係を強めるものである。

機関誌に東リ演運動の本質をはつきりつかもうといふことで今まで載せられて來たよである。しかし、これらの論文を読んで身じかに感じられる人はどれだけいるであろうか。内容は知つても活動として現われて来ない人も随分と多いのではないだろうか。あまりにも抽象的であり、理論的でありすぎると思う。

東リ演思想が今までの演劇活動にどのように現われて來たか、その体験を具体的に述べるような論文があつていいと思う。例えば、「郡上の立百姓」が広範な支持を得たということはどういうことなのか、東リ演思想とは

どんな関係にあるのかといふようなこと。機関誌には活動報告はなされているようだが、一つの活動の成果と東リ演思想との関係、あるいは東リ演組織との関係が述べられていない。

次に、機関誌に読者の、特に東リ演仲間の声が反映されていないことであるが、総会で機関誌に読者の意見を載せることが提案された。是非やるべきだ。二、三、四号の中に東リ演仲間と東リ演の結びつきを感じられるものが全然ないといつてよい。東リ演を東リ演の仲間から離れたものにしては東リ演活動は内から分裂しているようなものである。

なるほど機関誌「東リ演」は東リ演内だけのものでなく、東リ演運動を広範に広げるための一歩の武器みたいなものであるから威厳が備わつたものでなければならないだろう。しかし、演劇活動はオーネーにその思想にあるのではないか。たとえ文章がまづくとも東リ演員が会員としての自覚を持ち、「東リ演」を演劇の機関誌であることを忘れないでいるなら、低俗化も防げるであろう。機関誌を通しての東リ演と東リ演仲間の相互の高まりである。私達はその試みとして毎年の活動報告を運営委員だけでなく、その他の人もやってみるとことになった。そして機関誌の学習は主に東リ演思想を知ることになり、各劇団と東リ演との関係を深めるものになる。

総会で多くの問題が提起され、活発に討議されたが、東リ演事務局で決められたことが全体としてどのようにゆき渡っているかが話あわれていない。批評は本来、個人的・主観的なものであるが、その個人的・主観的批評が客觀性を持つにはどうしたらよいか、劇団内に批評活動を開拓させるにはどのようにしたらしいか具体的に話あわれていない。各劇団が普及、強化の活動の方針を立てる前に各劇団の普及、強化の体験を語ってそれに対する討議があつてほしかった。

それから、労演との関係について、東リ演も労演も同じ思想を持つものであるから共にやつてゆく。決して統一するものではない。労演と共に創造を高めてゆく必要がある。労演の持つている要求を知る必要があるという結論がなされた。私達も新演との交渉をおこななければならぬ。

会議は終始なごやかに進行していく。初めての私には総会でただ問題提起がなされて、具体的策が出ないこと、解決がなされないこと、不満を感じた。しかし、具体的な案を立てるのは各劇団の仕事のそれが民主的な方法であり、東リ演の各劇団信頼の念ともつながるものであることがわかつて來た。

はよりよい成果と明るい見通しと積極的な意見を提げて総会に参加したいと思っています。

### 三つのプロツク活動から

#### (1) 中部プロツク三劇団交流会

この報告は、でくのぼうの会東リ演班が発行している「東リ演ニュース」から転載させてもらいました。

とき・八月六日午後七時～七日午後五時

ところ・岐阜市

参加費・三〇〇円

実際の日程△六日▽

七・三〇 開会（若尾）交流会の意義、目的について

八・〇〇 講演（黒沢）東リ演の設立から現状、今後の役割

九・一五 分宿交流の準備と交流

七日

一〇・三〇 創造交流（約三〇分宛）

はぐるまヘトナムの炎は消えない、でくのぼうへおばあさんと酒と役人と

演集ヘキニーボラのある街、終景

一二・四五 講演（小林）創造について

一・四五 分散会 文芸・演出・演技・舞

台美術

三・四五 全体報告会 分散会討論内容の報告

四・四五 閉会（柘植）成果と合同ゼミ、総会に向けて

五・〇〇 全員合唱、アンケート、散会六・〇〇 黒沢議長を囲む会

\*はじめに

上記のような内容で、東リ演へ加盟している劇団のみの交流会を初めてもったわけだが

これは中部ゼミナール（東リ演外の集団も参加して月日実施）とは性質の異なったところがあり、オ一歩としては大きな成果をこした。

\*全体を通じて

近くでありながら、個々の劇団員がなかなか「おい」「お前」で卒直に話し合えなかつた壁が、夜の分宿交流で一步つき破れたよう

な気がする。

劇団間の交流が従来、中心メンバーのみで行われたり、形式的に流れていた欠陥が分宿交流という新しい試みである程度、克服されたのに大きな成果だった。

その話し合いをしていく場合、田村氏（はぐるま）の云う「共通の言葉がない」現状とも関連して、今回の交流会でとついぶんくいちがいや焦点ポケがあったことは事実だ。「何でもズバリと話し合おう」ということが氣持の上ではあっても、なかなかみ合っていかないもどかしさは、従来のゼミナールで多々あった。これの克服は、ひとつは集団の質的向上が大前提であるけれど、もうひとつは、やはりこの種の交流会が一見まわり道

しいライバル意識」も、めぼえてくると思う今までの私たちをかえりみても、「郡上一揆の暮あきの紋切型演技は何だ」とか「演集のやることは一貫性がないなあ」とかいうように、眞の仲間の目をもってみるのでなく、時には誤った部分的優劣意識が上にたった「連帯」の時期もあった。今度の交流会を通じて今さらながら、改めて兄弟からどういう姿勢で、何を学びとり、どう生かしていくかということの重要性を痛感した。

しているように見えても、くり返しつみ重ねていく必要がある。そこから、ほんものの「共通の言葉」がでてくるだろう。

又、このこととも関連するが、自分たちの集団で創造上のことが、どれだけ突込んで話されているだろうか、ということを考え方させられた。(自集団でそういう討論があいまいでは、交流会では当然できないことだから)

小林氏がはぐるまについて、「一時、小林田村、松岡の三人がケンカして分裂寸前のギリギリのところ迄いった」と云われたこと、そしてそれから現在に至る迄の、はぐるまの素晴らしい前進、成長をまのあたりみると「集団の、創造を軸とした團結」が、演劇集団にとってどれ程大切かということを改めて痛感した。

\*でくに即して云えば

#### △創造を軸にした團結△

でくの運営委メンバーがほとんど、それぞれ小学校時代から机を並べた竹馬の友でありそのことは、組織的人間的つながりを強力にしている強味でもあるが、しかし反面「左を向こう」「前へ進もう」があまり深い討論もなく進み、しかもこの弱点が創造面にズバリ及んでいる事実がある。

ひとつのはべなり運動方針なり、ある劇の評価なり他人の創造についてなりを、集団であるいは小グループで口角泡をとぼすような討論は、ほとんどされていないか、又はされ

ていてもある配慮が先に立って不十分なままで終ってしまっている。そして最近では、組織的團結まで弱いものとなっている。

若さとがむしやらなエネルギーで進んできたでくにとって、今は木崎氏(演集)の云う「危険な時期」であり、一部にはマンネリ化の傾向が生まれつつある。△未成年△上演を控えて、早急に克服しなければならない課題だ。

#### \*各劇団の報告から

△長期の方針、計画、レバをもつこと△はぐるまでは長期計画をもち、それにしたがいしべ(創作劇)をはっきり企画し、かつ全体のものになっていきます。(作品が生まれる前から!)アトミックボトムならアトミッククボトム一色にこの結果は、小林氏のすぐれた戯曲とはぐるまのち密な舞台となつて明確にあらわれています。これは何も小林氏のような傑出した作家をもつていなければできないということではなく、地域地方に責任をもつ拠点劇団の責任として今、まさしく今どうしても必要なことです。

ひとつのはべを決めるのに、五つか六つ並べておいて、あれかこれかという決め方をしている状況から脱却して、はっきりしたプログラムにそった、これだ!というものをもつこと、これは、私たちの舞台をつくる絶対的条件だと思う。そして、そこには当然、観客の意志が、希望が、熱気が反映されてくるである。この種はつづきます。

#### (2) 関東プロツク拡大会議

とき・九月四日正午と午後五時

ところ・川崎市大和電気労組

参加・麦の会3名、労芸6名、土の会3名、群馬中芸2名、舞芸小劇場4名、京浜7名

議長・吉田(土の会)能村(労芸)

劇団の組織的な弱さーメンバーの脱落、内部の不統一という問題が、ほとんどの集団から大なり小なり出されているのは、現状の反映ともみられるが、新人の募集と教育、現在の若い層を中心の組織かためも不十分であり、結論からいってしまえば劇団の中核体ー運営委員会の真の結束が生まれていないというることはないか。

この条件とも絡んで、舞芸小の「火だね」労芸の「東京争議団物語」といった、劇団の全生命をうちこむ創作の誕生が渋滞している。

一方地域文化戦線の強化ということでは、労芸が一〇月初南部文化戦線を発足させ、ここに活動のウエイトをおきながらヘビカのかげからくを作品化し、群馬中芸もヘビトリップ子くへ綿糸のうさぎ君くのレバで、小中高校公演を積極的にひろげながら、前橋に創造団体をつくろうとしており、土の会も東動演の創造・組織上の中心劇団となって活動している。

各劇団とも独自活動と地域活動の大きい要

請に、フル回転しており、この中では集団主義の徹底、指導部の機能化、一定の計画性がどうしても必要になってきてる。

#### \*合同ゼミ・東リ演総会報告（黒沢）

#### \*地域要求と内部体制

新潟からだされた表情一団員一名（実効八名）男子に農業が多く、女子も達成期で週一回の集まりがやっと、メンバーはリーダーの教え子で、何のために芝居をやるのかがよくわかつてない。構成詩によるカンパニア出演が活動の中心で、一月、こばやしひろし作へこわれないものはない。で自主公演を予定一が討論の口火になる。

ここでは、劇団であるための超課題一方針に一貫性が乏しいこと、カンパニア出演に活動の中心をおいては、劇団をささえる観客も新しい劇団員もつくりだせないこと、地域での役割意識を観念的に先行させるのではなく自分たちがどういう芝居をつくりたいか、どうつくるかで、地域との関連、観客とのつながりをつよめるべきこと、などが詰合われ、それは単に麦の会への提言にとどまらず、関東B各劇団の現状にも対応しうる。

たとえばカンパニア出演と独自公演の関係では地域をどうとらえるか、ということと、劇団の内部体制をどう強くるかの問題が不可分のこととしてでてくる。この二つの面を統一的に見とすことが重要であり、その保証は集団民主主義をつくる努力、地域観客の要求を正しくみあげる努力によって生まれるの

ではないか。

期生コースから劇団に入った時点で脱落者がが多い、公演後にガタがくる、稽古の集中がよくない一劇団の中の人間関係が冷えていて連携が義務感でなされている、という中から

飛躍する力は生まれない。どうしたらよい創造集団になれるか一全体がそこへ向けて集中できる集団民主主義をうちたてるしかない。同時に集団がひとりの創造への欲望を、どう具体的に生かして伸ばしてやれるか一を真剣に考える必要がある。

観客の要求、ということがまだ抽象的にしかつかめていない。合理化、ということも一般的観念的にしかつかめない。そこからズレが生じる。小さいようだが、そのズレから生きているものを見失い、死物化してしまう結果がうまれる。京浜が職場分析の学習をやりはじめたことも、地域の要求の実体を生きたままの鋭い局面としてきりとつてくるところに主目的をおいている。

\*相互のまなび合い

プロツクゼミナーの必要については、総会でも強調されている。しかし、それ以前の問題として、プロツク内各劇団の創造的な交流がきわめてよわい。相互にまなび合う、といつても舞台をみあうとも、ろくに実行していない。これについて、労芸の荒井氏から京浜、土の会に対する批判がだされ、（労芸へ朴達の裁判）の応援の謝絶、同公演観劇への不参加と途中退場、Bゼミ開催予定の一方的中止と出演予定の舞芸小への迷惑等）つよい不信が表明される。

あの仕事ではあまり覗たくない、ということとも、覗ても批判しにくい、ということも現実に存在する。しかし広義には、それもわれわれの体質の一部であり、やはりみ合い批判し合う必要は強調されるべきである。とくに新潟のよう孤立しやすい集団をはげますに

をいう創造への確信をつよくしていかないと  
へ真土村一揆へのテアトロ評をはねかえす

体质がつくれないのも事実である。

労芸の萩坂氏が、観劇後から評価を劇団へかえしているが、こうした批評活動の日常化と蓄積が大切である。土の会のために京浜の黒沢が脚本をかくということも、一つの成果だが、これも日常交流のつみ重ねから生まれたことだ。

#### \*運営委劇団決定

会議終了後、代表者会議ではなしあった結果、関東プロツクの運営委員劇団に、劇団労芸を選出した。

#### (3) 東北プロツク劇団交流会

とき・九月一日午前九時～午後五時  
ところ・仙台市県民会館

参加費・二〇〇円

参加団体・仙台小劇場、劇団山形、劇研委の会(石巻)、演研こまくさ(山形)、ふどう座(岩手)、劇団あまんじやく(仙台)  
仙台演劇集団、他に名古屋演劇集団(若尾正也、若尾隆子)、静岡芸術劇場(西横太井岡栄二)、京浜協同劇団(黒沢参考)、  
座長・小谷(仙小)

#### \*講演(黒沢) 勤労者演劇の現状と問題点

\*各劇団の報告からやはり問題は山積している、といえる。勤務先の先輩から劇団をやめるといわれる(山形)、出かせきで若い人が入団せず平均年令

が高くなる一方(ぶどう座)、期生集団がメンバーとして定着しない(仙小)、女性が全くない(麦)、という悩みから、職場活動の比重の増加につれてサークルの目標が不鮮明になり、たるみが生じている(こまくさ)古いメンバーがリーダーになってしまい、教えることが学ぶことにならない(仙小)、稽古場での劇団員同志の交流がよわい、特に若年層から不満がでている(山形)、等々の状況はわれわれにはほぼ共通している。

そして当然、それらに対応する実践もおこなわれている。年一回雪の下での定期公演に三〇〇人の村民をあつめるぶどう座は、その人々の声をきくためにアンケートをはじめ、さまざまな努力をかさねる。サークル全員の要求をしょって初めての創作劇を、自分たちの生活と斗いの中からつくりだしたこまくさの三人のグループ。山形の勤労演劇史から学び地域一四サークルとの連帯をかためる具体的な実践の中から、拠点劇団としての体質を鍛えていくこうとする劇団山形。それぞれのおかれている環境も、歴史もがうけれど、難関をうちやぶろうとする知恵と情熱が共通してうかがえる。

「日に日に高まってゆく観客の要求に応え

て、演劇の内容の上でも表現の技術の上でももっと早く、もっと豊かに向上するためにはもうひとつひとつの劇団のばらばらの努力でも追いつかなくなっています。」仙台小劇場のバンフにのった、交流会のよびかけは

が高くなる一方(ぶどう座)、期生集団がメンバーとして定着しない(仙小)、女性が全くない(麦)、という悩みから、職場活動の比重の増加につれてサークルの目標が不鮮明になり、たるみが生じている(こまくさ)古いメンバーがリーダーになってしまい、教えることが学ぶことにならない(仙小)、稽古場での劇団員同志の交流がよわい、特に若年層から不満がでている(山形)、等々の状況はわれわれにはほぼ共通している。

山形の基礎訓練日常化、二五男をしめる学生がはじめての定期公演に三〇〇人の村民をあつめるぶどう座は、その人々の声をきくためにアンケートをはじめ、さまざまな努力をかさねる。サークル全員の要求をしょって初めての創作劇を、自分たちの生活と斗いの中からつくりだしたこまくさの三人のグループ。山形の勤労演劇史から学び地域一四サークルとの連帯をかためる具体的な実践の中から、拠点劇団としての体質を鍛えていくこうとする劇団山形。それぞれのおかれている環境も、歴史もがうけれど、難関をうちやぶろうとする知恵と情熱が共通してうかがえる。

西・井岡兩氏(静芸)が、「一、二年前に考えられなかつた前進といわれたように大きな歩みをしかしながらも、その間で何が何が起こり、それは時間のかかることである。

西・井岡兩氏(静芸)が、「一、二年前に考えられなかつた前進といわれたように大きな歩みをしかしながらも、その間で何が何が起こり、それは時間のかかることである。

## 仲間の活動から

おけら座

黒沢參吉作／黒田利夫演出／巣ばなれ／か  
たおかしろう作／天満のトラやん／より・一  
月二〇日・立川公民館

## 弘前演劇研究会

## 仙台小劇場

劇団山形

才三回公演・早船ちよ作／蓬萊泰三・作間  
雄二脚色／作間雄二演出／キュー婆のある  
街／三幕六場・一一月二七日・弘前市民会館  
会館

## 麦の会

## 京浜協同劇団

劇団未来

才三四回公演・小島真木作／瀬川龍夫演出  
才一四回公演・こばやしひろし作／田中万  
代演出／書けたゞ黒板／三幕・一一月二四日  
二七日・川崎労働会館

## 劇団やまなみ

## 信濃小劇場

わかもの座

高たかし脚色／武藤行雄演出／ひとりつ子  
森本誠原作／成井市郎脚色／中川惠司演出  
才二回公演・和田澄子作／森本景文演出  
高たかし脚色／武藤行雄演出／ひとりつ子  
森本誠原作／成井市郎脚色／中川惠司演出  
才二幕四場・一〇月六、七、八日・松本厚生  
会館

民会館映画講堂

## つくしの会

## 劇団麦の会

名古屋演劇集団

ヤーリツエフ作／密林地帯／峰三吉作品よ  
り／構成誌／一一月二二日・富士宮市合同文  
化祭参加

スタジオ公演N.O.4・早船ちよ原作／安  
田舜二演出／キュー婆のある街／三幕六場  
才二幕四場・一〇月六、七、八日・松本厚生  
会館

早乙女勝元原作／仲武司脚色／若尾正也演  
出／小麥色の仲間たち／四幕・一〇月二九、  
三〇日・名鉄ホテル

舞芸小劇物

円乗淳一作／堤安彦演出／傷つけられた街

▼一二月一〇日頃・北区公会堂／豊島公会堂

てくのぼうの会

才七回公演・早船ちよ原作／栗木英重脚色

柘植洋演出／未成立／三幕・一〇月八、九

一〇日・名古屋南区図書館ホール

劇団ひまわり

黒沢参吉作／柴野千栄雄演出／巣ばなれ

一一月一九日・福井県武生市

東京働く者の演劇祭（第四回）

妻

大和雪彦作／須藤正義演出／ばらのベビー

▼一〇月二三日・石巻公民館

劇団はぐるま

こばやしひろし作／松岡直太郎演出／書け

ない黒板／名古屋公演・九月一日・名鉄ホ

ール・ヘヴェトナムの炎は消えな／上演は

九月二十四日・郡上八幡／一〇月一五、一七、二三日・名古屋／二八日・岐阜微明公民館

\* \* \*

神奈川県合同演劇祭（第八回）

一月一二日・県立音楽堂・(1)京浜協同劇

團・作間謙一郎作／野口行男演出／貞姫表彰

▼(2)横浜小劇場・ハンスザックス作／飯田克

衛演出／天國に旅する学生／(3)横浜市従演劇

サークル・内木文英作／古德一演出／ある死

神の話／(4)劇団〇・・辻合敏明作／高井紀

光演出／茶碗の中の嵐／(5)かに座・作間謙一

郎作／平本玲子演出／楽しき故日曜日／(6)河

童座・田中千禾夫作／横田弘行演出／笛／(7)

東芝鶴見演劇部・木谷茂生作／二木正敏演出

金振り向かない男／(8)ふどう座・中村俊夫作

演出／笑わぬ女／

宮城県職場演劇祭典（第一三回）

一月二七日・仙台市公会堂・(1)劇研麦

田中茂作／松本三爾演出／海の仲間／(2)仙台

小劇場・丘揚作／吉田和雄演出／三家福／(3)

県厅演劇部・真船豊作／菅原仁演出／鉛／(4)

こまくさの会・辻合敏明作／鹿野智子演出／父と娘／

間雄二作／田中義明演出／津軽ばかり塗り／足座・村田光子作／阿部吉典演出／ひるめし

▼潮騒・チエホフ作／佐野修演出／二つの挿

話／劇団独立派・旗ひさし作／増山征宏演出

／墓地のある村／埼玉県南演劇サークル協同

佐藤逸平作／波沢洋俊演出／石もまた叫ぶ

## 西リ演劇曲研究会を開催

／一二月三日午前九時より一二月四日  
正午まで・場所／広島市（会場未定）

正午まで・場所／広島市（会場未定）

## 劇団はぐるま『書けない黒板』観劇記

「名古屋演劇集団」 沢田靖一

### 先ず観客動員について

あの名鉄ホールを文字通り超満員にした、はぐるまの観客動員に全く驚かされると共に名古屋の地元劇団員としては少なからぬ刺戟を与えられないわけにはいかなかった。我々地方劇団の中では、およそ劇場を満員にするということより、七分か八分も入るとまずまずと妥協してしまうのが常識のようになってしまっている今日このごろ、はぐるまのそれは、まさに教訓的であるといつていいのではないか。それと共に働きかけは必ず動員出来る要素があるという確信をも与えられた。こばやし作品と劇団はぐるまの姿勢には敬意を表したい。『書けない黒板』もその例にも普段活動は、いつの場合でも、いずれの劇団にとって悩みの種であると思う。その点でも学ぶものは多い。ましてすぐ隣とは云え我々の地元である名古屋であれだけの動員力を示されでは、否が応でも奮起せずにはいられない。

そのことは又、名古屋演劇集団の普及活動を根本的に革改すべきところに来たことを自

／(1)主に左記作品の検討、評価・大阪 堀清  
城の虎・だけど私のせいじゃない・書けない

一タード

宇津木秀甫

黒板・繁秘・ある労働者作曲家の生涯・真土

村一揆

報告者宇津木秀甫・和田登子・土

屋清

問合先

広島市庚午北町五一一〇一

劇団月曜会

土屋清

すます一人一人にひきはなされつつある時、ここにとり上げられたグループ学習の教育が実に有益であることは教師じしん知らないはずはない。  
サラリーマン的出世欲、あるいは教育と政治を別ものとして考える傾向、その中で真の教育をもとめる教師の立場はますます苦しいものに追いやられて行く。これからはすべてその反動教育政策の示すところである。その意味でもこの上演の意義は大きいものであったと思う。

### 演技について

まだまだその個々についていえば問題があると思われるが、こゝでは私のような未熟若輩の者が申し上げるまでもなく、劇団内で克服できる問題であり、又他の経験豊かな人よりも指摘助言のあることと思うが特に感じたことを述べるなら、主に反対行動の役について問題があつたように思われる。校長（藤沢）教育課長（佐々木）は少々無理してつくられたきらいがあり演技の変化を感じられず教頭（江崎）にも中途半端なところが見受けられた。山田先生（外山）、P.T.A.会長（田村）には洗練されたうまさを感じた。

最初から何かすっきりしないものがひっかかったまま解決できず見終った。特にうしろの手?のようなものはその意味の解らないこともないが何かその場の異和感を覚え終始いやらしい感じを起され、どうしても必要なものとは感じられなかった。もっと全体的に写実的なもので良かったのではないかと思う。

せっかく内容のある芝居が装置の面で少々差引きされたと感じたのは私だけであつたろうか。全体的には、前半は少々間のびしただらけを感じたが、後半はやはりひきしまりぐっともり上ってきた。はぐるまの名古屋公演の成功を心よりよろこび拍手すると共に

われわれも良い意味のライバル意識をもやし追い越さなければならない。それこそ地方文化をもり上げるための基盤ともなるものではないだろうか。東り演の仲間たち、お互いに批判し合い競争し合おう。

## 北海道演劇集団からの手より

相互に交流をなこそう

北海道演劇集団事務局長の松波喬介氏から東リ演事務局あてに、左の通信をいただいたので紹介します。文中にも又同封の機関紙「道演集」第六号にも触れている。集団の運動の方向を明確化するという目的で、一二月上旬札幌市において全道規模の座談会がひらくれる等、七月実施された第二回演劇祭の収穫を定着させる活動がすすめられています。機関紙「道演集」と各劇団の資料の交換をぜひ実現して下さい。所在地は、札幌市豊平四条一三丁目・市営アパート一一九。松波方・北海道演劇集団です。

### 東リ演の皆さん

皆さんの日頃の活動にたいして、仲間として心からの敬意と連帯の握手をおくります。北海道はいよいよ冬将軍の訪れもまことにせまりり、特に三年連続の冷害にみまわれきびしい冬を迎えるとしています。また炭鉱地帯も合理化による労災やガス爆発などの慘事もおこり、我々をとりまく情勢はきわめて厳しいものがあります。我々北海道演劇集団は、皆さんたちと同時に一九六一年秋に道内約三〇団体が結集して創立されました。今年で五年目を迎えるのですが、日常活動の弱さや指導者不足、合理化による配転など、多くの困難に直面しながら、今日まで活動を続けてきました。しかし、同封の「道演集」第六号で問題にされていますように、集団の方向づけといふ基本的な問題を、五年目の時点で取上げる状況、即ち統一を守る観点から運動方針を明確にせず結成された当初の弱点が、現在集団活動の停滞をひきおこしているのです。五年間のうちに、二回の全道演劇祭（六二年・六六年）を開催、一定の成果をあげました。しかし運動に対する共通の目標を明確にしないために、運動（創造面も含めて）が目的意識的に発展しない弱点の克服が当面の重大な課題にかつています。われわれは、東リ演の運動発展に注目してきましたし、多くの貴重な教訓を学んできました。今後さらに連帯を強めて進んで経験を学びたいと考えています。この意味からも、また日本の勤労者演劇をさらに発展させるためにも、相互に交流を維持したいと思います。将来は東リ演総会などにもオブザーバーとしての参加を考えていますが、当面情報の交換だけでも進めていきたいと思います。今月より「道演集」を送ります。東リ演の刊行物・ニュースも送付願いたいと思います。

東リ演の一層の健斗を期待し筆をおきます。  
一一月一八日

# 東 西 南 北

A 「東西南北」タネ切

れという訳じやないが  
最近みた舞台の感想的  
批評をやろうじゃない  
か。何を観たかね。

Z 九月一〇日に仙台小劇場の『陸橋』。一  
〇月七日に信濃小劇場の『ひとり子』。  
それから一〇月八・九日に川崎高校演劇  
研究会の合同発表会で一〇校の舞台。

A Z じゃ、仙台小劇場から。  
昼夜二回とも観た訳だが、やはり気がか  
りは昼の舞台が落ちること。キチンと舞台  
稽古がやれないのは辛いことだが、転換が  
長すぎるしるるさい、袖に人影がちらつく  
プロムズターの声がきこえる等々、舞台監  
督の機能が非常によわい。それが俳優の役  
づくりにも大きく影をおとしているのを感じ  
た。

Z 夜はグンとしまって、安心して観られた  
な。どんな無理しても舞台稽古が必要だ。  
岐阜のはぐるまでは一週間か一〇日前に仮  
初日を設けて、そこでのダメを徹底的に検  
討した上で初日をむかえる、といつていた  
が、この厳格さは学びたいね。

A 何回か上演する場合、やる方ではミスを  
次の回でとりかえそうと考えられるが、観  
客がみるのは唯一回、その舞台は取りかえ  
しがつかないということに、もっと怖れを  
もつ必要があるな。

Z 『貞婦表彰』や『芽よき』の生まじめな

手がたいものが、ひたむきに主題を追って  
いく劇団の体质として感じられて、ぼくは  
気持よかったです。

A 基本的にはそう思うけれど、やはりあ  
いう一幕の舞台とちがって、スケールも大  
きいし人間関係も複雑な『陸橋』を充実さ  
せるには、なんとしても振幅がよわいとい  
うか、大胆さがないというか。。。。

A Z ためらいやビクビクしたもの。。。。。  
A そう。演出もアクセントが乏しいし、ま  
ず労働と生活のリズムが感じられない。ミ  
サンスエーナも、もっと思いきって大きく  
すればいいのに、とにかくみていてもどか  
しくて困ったな。

Z しかし、杉山さんの浩子、草刈さんの三  
枝、樋口さんの郁子が役へのまっすぐな投  
入を感じさせて、ぼくには快よかった。

A 夜の部の文字をおもしろかった。大木さ  
んの野中、もう一つふっ切れるとなあ。

Z 作者が女性のせいかね、女優の方方が  
いきいきしていたのは。

A 小谷君の望月、がんばっているけれど、  
なにしる一人になってしまふんだな。北村

君の小野、横君の課長もそうだ、かみあつ  
ていかない。ことに山中君の松本、堀川さ

んの安本、この重要なキャストが対象との  
交流をおこせなかつたのは、舞台全体の大  
きいマイナスだろうな。

Z 藤村さんのフジ、吉本君の増吉。さすが  
ってことだらうけど。藤村さんに昼の部で

は大分プロムズの厄介になっていたが。。。  
A さすが、なんて云われてちゃいけないん  
じゃないか。ぼくは藤村、吉本ラインが全  
力投球やらなければ絶対いかんと思う。内  
政干渉になると困るけれど、二人ともハマ  
リ役で適当におつきあいしておつべきやな  
いだろう。そう思わないか。

Z ああ、吉本君が松本、藤村さんが安本あ  
たりをやって、稽古場の空氣をビシビシし  
めていったら違うだろう。われわれの中で  
の数少ない幹部の俳優が、新しい人たちに  
そういう創造上の影響をあたえていくこと  
って、いますごく大切だとおもうな。

A ほくらの後でみていた若い娘さんたち、  
とても開放的なんだが、チャンと芝居の世  
界に入つたね。浩子のことでもすっかり  
親身になつてしまつて、松本のことを、あ  
んな男ダメだ、アキラメちゃえ、って話し  
あつていてるんだ。

Z うん、いいお客様さんに囲まれててゐるんだ  
な。あの人たちにしっかりこんでいか  
なきや。。。と思った。

A 装置や照明もまだまだがんばつてもらい  
たいな。よつてたかってサマにしてはいる

が、卒直に云つてプランが感じられない。  
プランの弱さは仙台だけのことじゃない、  
われわれに共通した問題だがね。

A

それは違ひはしないか。ぼくはそういう安全圈みたいなものをつき破るエネルギーは、充分あると思う。**『貞婦』**を仙台小劇場のベースとおさえないと、もっと破れてもいいから噴出すべきだと思つていて。

Z

この辺で信濃小劇場へいこう。松本労演にいた横山氏中心に松本青年演劇研究会をつくったのが去年の春、本のよみあわせや小さい芝居づくりをしていたところへ、六月演出の武藤氏が加わり、今年三月から劇団の体制をつくった。

A

公演活動をやり、観客とふれあい組織的にうごくことで、演劇の使命をつかんでいくという姿勢は正しいね。ひとりっ子では、四月から六月まで週二回で本の研究七ヶ月に隔日から週四・五回、九月初旬に一週間合宿して以後毎晩の稽古。若い劇団とはいえ、なかなかの強行軍だ。

Z

ところで、ひとりっ子の舞台だが……どうだった。

A

一言でいえば、意あつて力足らずか。

Z

意あり、とみるの。

A

信濃小劇場の情熱——結束は感じられた、若さと情熱をそそいでこそ松本でやつていこう、というその意は充分に。

Z

それは、まず大事なことだろう。しかし

演劇運動ではきり結ぶ対象は観客だし、さり結べる内容は舞台の創造だ、ということをしつかり腹にすえておかないと。力をだすべきトが不鮮明なのかな。

Z

一般的な運動意識を、創造運動に単純にイクオールさせることを、意ありとみるのは疑問……というより甘すぎるな。

A

ところで舞台だが、大分こまかくメモとっていたね。

Z

とても全部には触れきれないが、せんじつめると演出者をふくめて舞台のしごと、とくに俳優のしごとというものがわかつてないのじゃなか、酷な云い方だがそんな気がした。

A

そうね、演技といえるのは京子役の島崎さんにはの見えていただけだな。

Z

他の人がすべて陳腐なために、彼女は比較的すなおで救われていた。こういう古風な演技というのは、高校演劇あたりでもマスターしはじめているんだが、どこからくるのだろう。

A

フシのついたセリフまわし、順番まちの会話、モーションのついた意味のない動き交流は全くないし、ドラマの流れはスタッフに断れている。

Z

演出者自身のやつた上田先生の演技——心理説明的というのか、フリをしているんだな。新二の提起する問題にゆさぶられる苦悩を演じちゃっている、そこには対象としての新二は影もないし、オ一大変常套的なんだね。

A

ああ、常套的ってことだね。怒ればどなり、悲しければ泣く、何かというと中空を

Z

にらんで棒立ちになる。この月並みな発想をやぶらないと……

Z

それは俳優の内部に、ドラマの思想がどの位のふかさでつきささっているかの一問題だな。演出は極端にいえば、常套的なつかみ方しか与えていないね。本もよくないなぜ、こばやさんの脚色をとらなかつたのかわからんが、本のせいもあるよ。

A

ぼくは、やはり演出の責任にしたい。新二の防大合格祝いの夜の場、酒のみくらべの芝居など、演出の無計算も甚しいといわなきゃなるまい。もちろん、仙台とは一緒にできないけれど、ここもプランがないんだ。ホールも間口四間余、奥行二間といふ悪条件だが、装置照明ももう少し工夫のしようがあるだろう。効果にいたっては、生理的に参ったね。

Z

すい分ひどいこと云つたけど、運動の意義みたいなことで、あの仕事を評価されたら大変危険だってこと知ってほしいし、もつと謙虚に芝居のことを勉強してほしいな。折角あれだけのエネルギーをもつた仲間が集まっているんだし、正しい創造方法もてばまちがいなくのびるんだから。

A

松本って二回しか行ってないけれど、根をはってやっていくには、いい術だね。信濃小劇場が、観客を大切にし、舞台を大切にして腰をすえてやっていくことを期待したい。

Z A 洗足学園だね。

うん、ここのはシンメルブッシュの沸る  
夜に、よかつた。

大橋喜一さんも絶讚してたね。

「民芸の研究所でも、ここまでできるか  
どうか」と云つてた。

A 演出だらうとおもつたんだが、あの演出  
が生徒だけでやれたんだろうか。

Z わからないなあ。顧問の先生は結構古の  
それだって専門家じゃないんだし、あい

A 段階で三回位みました、と云つたけれど  
う舞台の緊張がうまれてくるとはねえ。

Z 緊張というと肩筋はった感じだが、むし  
ろ充実かな、ここ暫らくの間にみた舞台で  
あんな感動を味わった経験はすくない。

A 考えてみると単純なことなんだね。要す  
るに舞台の人間が、全部目的をもって行動  
しているということ。それが痛いほどわか  
る。現実以上に現実的な舞台からはリズム  
がうまれるだろう。舞台は病院の看護婦詰

A 所だが、病院のそれも深夜のリズムがキチ  
ンとでている。その中へ、看護婦、患者た  
ちの生活のリズムがからんでくる。その計  
算がありながら、計算の痕跡はみえない。

A うん、俳優が自分のポジションを守つて  
いる一といつた、ピクピクした消極的なも  
のじやない、大変大胆なんだね。病人の容  
態が悪化して、とびこんできた看護婦が薬  
や器具をとつて又とびだしていく、その切  
迫した状況を横目で見ながら、電話でデー

トの打合せをしている非番の看護婦は、あ

いた手で電話のコードをもてあそんでいる。  
生活のヴァイタリティというのかな、ビシ

ツとでいるね。当直医の所在を追つて各病棟へ電話して

いくたたみこみの緊迫感、シンメルブッシュの煮沸音の効果、大小道具についての実

に綿密な気くばり、更衣室の使用のしかた  
やはり演出だね。

A そして当然、演技だよ。演技のアンサン  
ブル。

Z この他にも、川崎工業高の「牛」、高津  
高校の「金曜日の客」など面白かったが、  
とにかく洗足学園の舞台は抜群といっていい

A 高校演劇の場合、ここで達成した水準を  
どう新しいクラブに継承させるか、そして

Z 他校のクラブ活動に波及させるか、難しい  
がぜひ考えたい問題じゃないか。

A それと、勤労者の演劇サークルがたとえ  
ばシンメルブッシュをみてくれたら、

Z という気がする。やはりいい意味でショック  
だらうし、はげみになるからね。

A ああ。やつてる意義みたいなものに、あ

Z ぐらかいちやいられない、そう感じとれ  
ば大きい教訓だね。

## 「東リ演」六号 一月下旬刊

(1) われわれの批評・誰の何のためにどう  
行われるのか

(2) 西リ演・戯曲研究会のレポート  
とくに新しい書き手を生みだす  
という観点

(3) 証録・京浜協同劇団第七回総会  
三年計画をくむための年末九日間  
の討議をまとめます

(4) わが初夢  
全劇団のなかまの年賀ハガキ展覽  
会というところ

(5) なかまの舞台から  
秋以来のなかまの仕事について卒  
直な意見の交換を

(6) 戯曲・未定  
一〇〇枚位の作品掲載可能―各集  
団の積極的な推進を期待します。

東 南 西 北

あなたのもわりに固定読者を一人／  
月刊化、活版化をみんなの目標に／

## 小選挙区制を廃したら

京浜協同劇団  
城谷 護・堤 次郎作

とき 一九六七年某月  
ところ 自民党選対本部

人 物

佐藤 栄作 男  
ジョンソン 男  
独占擁吾 女  
汚職彌太郎 女  
書記 1 女  
書記 2 男

書記1 先生、何年ぶりですか？  
独占 一、二、三期だから、十二年ぶりということだね。（笑）が  
しまらない（いやあ、よかつた、よかつた、たしかめるよう  
に）当選というのは、落選じゃないということだからね。  
書記1 へえ、よくもそんなに辛抱しましたねえ。  
独占 それだよ、ほくの信念は、寛容と忍耐一池田先生も草葉の陰一  
で、さぞかし喜んでおられることがだろう、クション。  
書記2 なにしろ、わが党の人気は下り坂の荷車、落ちる一方でし  
たからねえ。

事務所には「自民党選対本部」の札。その隣には、立候補者の名前がズラリと並んでいる。その名も、例えば、汚職彌太郎、独占擁吾、星井金夫、宇素付三、物価上代、税金都留成、買収千恵子、小林章、田中彰治など……。

「タスキをかけた独占擁吾が、「ウロウロ、イライラ……」と言ひながら、落着かないようすで歩き回つてゐる。

1電話のベル（書記1が自分の口で鳴らす）

書記1 ハイ、ハイ、こちら自民党選挙対策本部……ア、川崎区…

独占 ここだけの話しだがねえ。（高笑）

書記2 ハヤア、先生のコマーシャルソングが、またよかつたです

独占 ハイ、どうぞ…独占護謹…ちよひと待つて。先生。

おゝわしだ、独占擁吾…ナニ、当選？ほ、ほんとかね…  
ナニ、三票差…ビックリしたなあもう…ありがとうございます。  
がとう、皆によろしく、ハイ、ガチヤン。（切る。高笑）

書記2 （候補者名簿に花をつけながら）先生、おめでとうござ  
ます。三六六番目の当選です。この分じや、四〇〇はかたいで  
すよ。

独占 一、二、三期だから、十二年ぶりということだね。（笑）が  
しまらない（いやあ、よかつた、よかつた、たしかめるよう  
に）当選というのは、落選じゃないということだからね。  
書記1 へえ、よくもそんなに辛抱しましたねえ。  
独占 それだよ、ほくの信念は、寛容と忍耐一池田先生も草葉の陰一  
で、さぞかし喜んでおられることがだろう、クション。  
書記2 なにしろ、わが党の人気は下り坂の荷車、落ちる一方でし  
たからねえ。

独占 だからこそ、キミ、選挙制度審議会なるものをデツチあげて  
強引に改正したんじやなくか、ついでに、いくねえ、小選挙区  
制つていうのは。

書記1 そりや、そうですよ。選挙区も小さく割れば、買収、供應、  
恩のまま。よくさう三バン、一に地盤、二に看板、三にカ  
バン。この三つをまた、先生は実にうまく生かされましたから  
ねえ。

からねえ。

書記 へえ、先生、もう一べん聞かせてえ。

独占 ハハ…そうか、そうか。じゃ、ひとつやつか。

生きてる限りは、代議士に

しがみつかせて、欲しいのよ

傷つき汚れた 私でも

骨まで 骨まで

骨まで支持して、欲しいのよ

何にもいらない 欲しいのよ

あなたが入れれば 幸せよ

私の願いは、ただ一つ

骨まで 骨まで

骨まで支持して、欲しいのよ。

一拍手。ジョンソン、佐藤らもいつのまにか来てくる。

独占 いやあ、親分、こりや、とんでもねえところを…  
佐藤 親分もどきげんだよ。

一電話のベル。書記1が当選者の名前をよびあげ、次から次へ

と当選の花がふえていく。

書記2 ついに四〇〇突破。わが党の得票率は合計しても三〇%足らずなのに、当選者数は議席数の七〇%。これじゃ、あの頃、野党の連中が反対だ、反対だと驚いたのも無理ないです。なにしろ、あの七〇%以上は死票となってしまい、国民の声は

反映されなくなるんですからねえ。すこしトリックだ。さすがは佐藤先生。

佐藤 いやいや、これもみんなジョンソン親分のお力だ。

ジョン それではそろそろ、佐藤栄ちゃん！

佐藤 へえ。…（客席にむかって）わが党は、ここ十数年来、落ちてきただが、今回の小選挙区制実施によつて、わが党の歴史上最高の七〇%の議席を確保することができた。ではこれから、わが党の長年の宿願であり、ジョンソン親分からも何回となくきついお達しをいたしてきた、憲法改正についての強行採決の訓練を行ひ。それでは、議長候補の汚職彌太郎君。ようく、かれ（ストップ、ウォッヂを押すしぐさ）

汚職 へえ。「それでは只今から採決に入ります。

本改正案に異議ございませんか？」キヨロ、キヨロ（見渡す）

佐藤 （頭をつついて）これは何だ？

汚職 あらう、異議ないかと思いまして…

佐藤 バカヤロウ！それが余計なことだといふんだ。（ジョンソンの顔色を伺しながら）

汚職 シエー、「それでは只今から採決に入ります。本改正案に異議ございませんか。異議ないものと認め、本改正案を可決決定いたします。」

佐藤 遅い！ 妥保条約、日韓条約のときの教訓に学ぶんだ。あと十秒縮めらる。かれ

汚職 「それでは只今から…」

ジョン NO／NO／（イライラする）

佐藤 へい。五秒短縮。かれ

汚職 (興奮し、議長マイクを握つたかつこうになる) 「それでは  
只今から……」

佐藤 親分 (伺いをたてる)

ジョン スピードはこれでOK。本文はできどるんかね。

佐藤 へえ。お、お聞かせ申すんだ。

汚職 へえ。憲法第九条「戦争は永久に之を放棄する」とあるを、

「戦争は之を極力やらぬよう努力する。但し、他国の侵略を  
受けたときはこの限りに非ず」

ジョン OH、よろし。

佐藤 WHY?

ジョン 社会主義の国、侵略してくるはずない。社会主義の国、  
平和を愛します。我々も平和を愛します。しかし、我々の平和

これ、みせかけです。その条文ではこちらからさせていけない。

じ。向うからさせてきたようみせかけて、こちらからドカー  
ンとやるようになおしなさい。

佐藤 へい。サラ、サラ、サラ。(条文をなおすしぐさ) じゃ、こ  
んなもんでは……

汚職 「戦争は極力、之をやらぬよう努力する。但し、國の安全  
と平和がおびやかされると判断されそうな時はこの限りに非ず」

ジョン OH、憲法改正、この位でOK。NEXT、  
佐藤 ではこちらへ。

一書記1-2は「労働者」とかいたタオルをけんめいにしめる。

ジョン もうと、もうと。

佐藤 独占、へい、しほるだけしほると……  
書記2 タラ、タラ、タラ……

ジョン OH、よろし。

独占 それで文句言う奴あ、こいつでバツサリ……(「首切り包丁」  
と書いた包丁を取り出し、佐藤に渡す。佐藤はジョンソンに渡  
す。)

佐藤 親分いかがでやんしょ、切れ味は。

ジョン 私、自分の手、汚せない。榮ちゃん、あんたやりなさい。

佐藤 私も汚せない。あんた、やりなさい。

独占 へい。めんどうなときはケイサツ、自衛隊を……。エイツ、  
(切る)

佐藤 すぐ切れ味。さすがは、メイドインUSA。

ジョン 私、満足です。

独占 それでもダメなときは、これで……(「分裂バサミ」とか  
たハサミをとり出す) ヤツ。(切つて二人の顔色を見る)

ジョン それ、最後の手段ね。味方同士たかわせる一日本の労働  
運動、平和運動を分裂させているのもこのハサミね。我々がベ  
トナム、朝鮮でもやつて、これ、アメリカのパテント特許ね。

佐藤 いやあ、ハハ……これで何もかも恩ぐのまま。

独占 これで何もかも恩ぐのまま。

佐藤 (くりかえす)。野党や労働者が、今頃さわいだつて、もう、  
あと祭りつてわけだ。(高笑)

独占 「芽のうち摘む」へ……よく言つたもんだ。連中が共斗だ  
の、統一戦線がどうこうの言つてた間に押しとおしたのは、こ

れつまり、作戦勝ちつてわけですか。

佐藤 労働者、ことにアカの連中さえ、おさえておけば、首切り、合理化、思いのまま。そのうえ、朝鮮戦争の経験を生かして、反対する奴がいなくなつたところで、ジャンジャンと戦争準備。自衛隊を軍隊に変え、徵兵令で一人残らず戦場へ……  
ヘツヘツヘツそれでは、乾杯といふか。では親分。

一汚職がコップを持つてくる。コップは無対象の方がよい。

ジョン アメリカ帝国主義と日本独占資本の勝利、万才／ガチャ  
ジョン（コップを合せる）  
三人（顔を観合わせ）ニタ、ニタ、ニタ（と笑う）  
書記二人は、ひざまづき、指をくわえて、そのおこぼれを待つてゐる。

一 終る 一

江戸 つ子 八つ あん  
舞 芸 小 剧 场  
お 麻 子 方 二名（できれば多勢）  
語 り 手  
八 つ あ ん  
主 婦  
自 術 隊  
労 動 者 相  
佐 藤 首

（若い女でも可）  
一名で入替ても可

-32-

轍子 拍子木の音終ると

イヨー（大鼓の音）

轍子 花の東京の豊島区に、江戸つ子氣質の八つあんが、おふくろさんとすんでいた。江戸つ子八つあん氣短かで、早のみ込のうかつもの、一息子で親孝行、ある日ある時おふくろが、大きな鼠をつかまえた、つかまえたと思ったら、指にかみつき逃出した。八つあん親のかたき討ち。

轍子 拍子木の音で八つあん登場)  
ねじり鉢巻たすきがけ、えい／＼やつ／＼とばかり体当り。

してやつたりとよく見れば、甘酒しんじよとさしまねく。八つ

あんちわてて追いかける。巣鴨、大塚、飛鳥山、北区の王子へ

飛び込んだ。飛び込んだ。

八 はて、ここは何処だろ。

この間に主婦登場、メガホン・タスキがけ

みなさん、アメリカ極東陸軍の地図局が、野戦病院になりま  
した。日本最大の米軍総合病院を作ろうとしているのです。私  
達の反対を無視して、ベトナムで女人や子供まで殺したアメ  
リカ兵の患者がもう来ているのです。原子力潜水艦、寄港と共に  
に許せない事です。皆さん日本をベトナム戦争の基地にしない  
ため、反対の署名をして下さい。

主 ちよっと。

う。

主 八 野戦病院反対の署名をおねがいします。

主 八 署名？そいつはだめなんで。

どうして？

八 いつもおふくろにいわれているんで。「やたらに名前を書いた  
り判つきなさんな」ってね、とくに見ず知らずの人に云われた  
時は、よくよく氣をつけなって。

主 いやだよこの人は。借金の保証人になってくれってんじやない  
よ。第一あんた人様の保証人って柄じやないね。

八 へへ。。。そつ云われてみるとその通りでへへへ。。。

主 私の話、聞いてたでしょ。

八 へえ、あんた大きな声が出るね。

主 そうかい、一生懸命やってみたんだよ、何しろ初めての事だろ

皆さんに判つてもらえるか心配でね。じやわかつてくれたんだ  
ね？

声は聞えたよ。

八 だから判つたんでしょ。

主 へえ、たしかに聞えてた。

八 主 病院の事だよ。

八 主 あゝ病院ね、そういうえば病院がどうこういってたな。  
そうなのよ。

八 主 で、その病院がどうしたんで。

八 主 あのね、ここ地図局跡に野戦病院を作っちゃったんだよ、し  
かも東京一の。

八 主 あ、そつそつ東京一大病院、そつそつ、そついってたっけ  
聞えてたよ、そいつはよかったです、本当にさ。

八 主 あれ、だつてそつやねえんですかい。この間の夜近所の子供  
が車にはねられて救急車にのせられたものの、病院がいっぱい  
で何処も、おことわり、五軒目によつと手当をして貰つたんだ  
よ。大きな病院が出来れば、こんなひでえ事はなくなるもんな。

主 気の毒にねえ、あんたその子供のタメにも反対してくれなきや  
だめだよ。

八 うん。。。え？ 反対、なんで？

主 あのね、病院つていつたつて、あたしたちのじやないの。ベト  
ナムの子供達を平気で殺してはるアメリカ兵の病院なのよ。

八 子供を平気で殺すアメリカ兵の？

込むから、いつコンラや、チフスが流行り出すか、わからないんだよ。

コレラやチフス？

あきれるじやないか、あんたアメリカ兵の死体や便のしまつは日本人が、させられているんだってさ。

ほんとかい、はばかりながら、江戸っ子八つあん、ヤンキーのくそ小便なんかのめんどう、みられるかってんだ。そうだよ、でも腹の立つことが、あるんだよ。ぶつたおれないでくれよ。アメ公の奴らちよっと良くなつてくると病院を抜け出して娘さん達を追いかけまわすんだよ。なにしろ栄養はオリンピック選手なみ、それで毎日ベットにゴロゴロだら、若い娘さんのいる家じや心配でねえ。

アメ公が、日本の若い娘の尻をおつかけまわす？ ふふさけるな／＼かんへん、かん弁なんねえ。しつかりしておくれよ。

あ、大丈夫でえ。

ね、だから反対の署名をしておくれよ。

よーし書くぞ、これが書かずにはいられるかてんだ。  
さ、ここよ。

(鉛筆をなめなめ) 弱ったな、あっしゃ、金針流つてやつでね。いいんだよ、あたしだってミミズののたりき、上手下手じやないよ。

へえ、それじゃ書かせて貰います。

「江戸っ子八つあん」いい名前だね。「江戸っ子八つあん」と。へえ皆さんそういうてくれるんで、へへ。

主 しょってるよ、この人は。  
二人 はつはつはつ。

主 さて、お次の始り始り、御通行中の皆さん。  
二人 はつはつはつ。

主 ちよ、ちよっと借してみな、あつしが呼び込みするから、おばさん片つ端から書かせるんだ。

主 そりゃ、有難う。

主 まかしどき。(メガホンを取つて) えー御通行中の皆さん。  
(次の言葉につまる) 御通行中の皆さん、本日晴天なり明日は

ドン天なり。

主 たよりないな、あたしの虎ノ巻借してあげるよ。皆さんどうもすみません。

主 よっしゃ、(読み) えーと、王子地図局

主 たんま／＼王子、オオジだよ。

主 あゝそうか、ええ王子地図局跡を都民に解放させましょう。

—34—

(主婦との間に署名を取る)

主 どうも有難うござります、ごくろうさまです、はいどうぞ。

主 あゝアーリカの、ペナント侵略を助ける、ことに手をかすな！

主 ベトナムだよ。

主 あ、本当、ベトナムだ。

主 すごいよ八つあんぼれ、こんなにいっぱいだよ。

主 アーリカやチフスの伝染病患者を国内に入れるな／＼ あ／＼ 伝染病。あはうちの鼠、あんちきしよう何処へ行きやがったんだ。

病 あ／＼おばさん、がんばれよ、あばよ。  
語り 伝染病で思い出し、八つあん鼠を追かける、ついでに地図局

ひとめぐり

主婦、メガホン、メガホンと、八つあんを追かけ退場

八 へえ、なる程広いもんだね。これが日本人の病院だと、ありがてえんだがなあ、あ、いたいたこの野郎今度こそ、逃がすもんか。

語り 王子を後に八つあんは、風を追いかけホイサッサ、川越街道

コラサッサ、練馬の自衛隊に飛び込んだ、飛び込んだ。

八 畜生、こんな所に逃げやがった。はてここは一体、何だろう、なになに自衛隊練馬駐屯部隊？ へえー。

自衛隊員登場

自 お一人様御案内。

自 御案内って、あつしですかい？

自 そうだよ、あれを読んでみたまえ。

八 隨時試験、毎月入隊、十八才から二十七才迄の男子、はて何処かで聞いたような……。

自 隨時面接、毎日採用、衣服借します。月収十万。

八 うん、キャバレー処女林、ホステス、大募集、あれの真似をしたつてわけか自衛隊は。

自 真似は向こう、本家はこっち。

自 どっちにしたつて、たいした事じやないや、それより風々。

自 ねずみ？（恐れる）

八 実は、かくかくしかじかで、お袋のかたき討ち。

自 うーん、君の様を親孝行者は摸範的自衛隊員になれる。

八 へえ？ あつしが自衛隊員に。

自 いやあ男にとっちゃ、自衛隊は、この世の天国さ不況知らずで、

食う事、ねる事、着ること一切心配がない、その上賃金も出来るし、休みの日には可愛彼女とデート。（素振り）

八 彼女とデート……あつしは一度彼女と腕組んで歩いて、みたかっただんだ。

自 その上やめる時は退職金がたんまり。民間会社にや大もてでね、引っぱりだこさ。

八 へえ、なる程大したもんだ。

自 まだある、まだある、近々に海外旅行も、出来る。

八 へえ、海外旅行も？ あつしは一度ハワイへ行つてみたかったんですよ、あのほれ、私のラバさん酋長の娘、ての。

自 あゝ、いくらでもラバさんに会えるよ、それにベトナムにも行けるよ。

八 ベトナムにも行けるんですか。

自 うん、朝鮮、中国にも行けるよ。

八 中国へも、へえ、すげえ大旅行だ。

自 どうかね、いい話だろ。

八 へえ、じやあつしもいつちょ。

自 ようし、でてくる敵は皆皆殺せ。

八 やめた！

自 やめた？

八 へえ、お袋が心配で。

自 うーん益々気に入つた、その親孝行ぶり。後はいもう、判つと

るね。イヨーツウエ

八 （ほかんとしてる）

自 気を付けだ、イヨーツウエツ

八 (氣を付けをする)

自 こら貴様脱走するか

二 人退場

八 まわれ右  
(うしろを向く)

自 いい身体だ、甲種合格間違いなしだ。

八 (肩をたたく)

八 (たへたとたおれる)

自 少し腰が弱い様だな。彼女とデートする時は腰をきたえとかなければいけないぞ。わしが少し、きたえてやる。そのままの姿勢で腕立て。五十回はじめ！

八 うへ、えれえ事に成田山。

自 あゝ尻が出すぎた！腹がたれとる。

八 こりや、ひでえや、これも給料の中に入つてんですか。  
つべとべぬかすな、立て！

八 へえ。(立つ)

八 けり上ざる。(片足でけり上げてみせる。)

八 ようしよ。

自 もつと気合を入れて、そんな事で暴徒が鎮圧出来るか？

暴徒？  
自 そう、デモ隊の事だ、やつらはいつも暴動を起すかわからん。だから、こっちも充分訓練しとかねばならない。

八 あつしにや、とても駄目だ。

自 いまさら益きどと言うな。

八 ひでえや、こんなの……あ、風

自 ねずみ、ひえー、こわいよ(とび上がる)

八 ねずみ、待てー(と追いかける)

語り あの手この手の甘い口、甘い口には毒がある、王子の部隊で

し擱られて、びっくり仰天八つあんは、あわやと思う日の前に、

鼠を見つけてこれ幸い、いた天走りで逃げ出した、タバコやさんを通り抜け、鼠を追つて右左、犬をけとぼしほえられて、汗をかきかき八つあんは、これ又ポストにゴツンコ、おデコをめ

なめかけて行く、かけて行く。

八 やや、変な所へ来たぞ、(集会場のボスターを読む)会場へ入って観客の要求其の他を聞く。会場が終ると、

語り 曲った事は大嫌い、眞実一踏に生きてくる、江戸っ子八つあんじいキップ。これが男の見せ所、鼠たいじと一田さん、折から並んだ数万、国会解散のデモの波。

労働者登場、小選挙区制反対プラカード

八 うわち、人がいっぱいいるぞ。もしもし何かあつたんですかい？

どうしてですか？

労 どうしてってね、物価はコイの滝登り、あげくに財布は腹くだり、俺達工場で汗しぼり、女房はやりくり知恵しぼる。

八 ホイ、サッサ。

-36-

労 これはみんな佐藤自民党政府のせいだよ、倒さずにいられるか

自 じ。国民党てのはそんなに悪いんですかい。

八 あゝそうだとも。その上俺達をもっとしめ上げる小選挙区制つて奴を強引にやろうていうんだ。

八 あー、小便所臭えねえ。

労 びっくりしたなーもう、小選挙区制っていうんだよ。

八 小選挙くせえ、やっぱり何かこう臭えニオイのするもんですか  
い?

八 あゝ、臭えも臭え、大臭えって奴よ。

八 へえ、鼻もちならないニオイのもんらしいな。

労 今、自民党の人気は、がた落ちで、三〇%以下支持しかない  
んだ。

八 へえ、そうですかい。

労 だから次の選挙には、国会の議席の三分の一はおろか、半分も  
とれなくなる。

八 ふむ。

労 そこで考え出したのが、小選挙区制ってやつなんだ。この方法  
で選挙をやると、今より人気が落ちても議席は沢山とれる。

八 頭がいいんだね。そんなやり方を考え出すなんて。

労 苦しまぎれに考え出したのさ。これはね、たとえていえば試験  
で三〇点もとれない落第坊主の自民党が採点方法をゴマかして

一〇〇点満点の優等生にならうつてきたないもんなんだ。

八 三〇点が一〇〇点になれ、昔からあれば、あつしも優等生にな  
れたのに、今頃は東大だよ。

労 このインチキ誕生日の考えは議席とつしまつたら、まず憲法改  
悪、おおびらに軍隊を海外にして戦争を、おっぱじめる、お

れやあんたが戦争へ行くのはいやだつていつても無理やり兵隊  
にされちやう。

八 兵隊にされる? そいつは困るよ、おふくろ一人ぼっちになつ

ちまうし、さつきも、自衛隊にヒデーメに会つてんだ。人殺し  
はまつぶらだ、おことわりだね。

労 そうだよ、まつぶらおことわりさ。所がいやだなんていうと、  
ろう屋に、ぶち込まれちまうんだ。

労 ろう屋にぶち込まれる? 冗談じやねえ戦争がいやだから、兵隊  
もいやだつていうんだ、それがなんでいけないんだ。  
奴等が憲法かえちやうからさ、そうなると兵隊になるのが義務  
になつちやう。

八 かつてに変えられてたまるか!

労 小選挙区制になって選挙やれば自民党は必ず勝つ、そうなれば  
変えちやう。

八 判つたよ。小選挙区制をつぶさないとこの八つあんが兵隊にさ  
れちまんだな他人ごとではねえや。

労 よーし、さあ八つあん俺達と一緒に、自民党のボス風を退治

よう!

八 ボスネズミ、そいつは何處にいるんで。

議事堂の中だよ。

八 合点、心得た、あつしはちょっと一はしり、そのボス風をしめ  
げきゆの目に合せて来やす、ちょっと待つておくんなせー

労 八つあん、八つあん(労働者退場)

八 やあやあ見参見參、遠からんものは音にも聞け、近くは寄つて  
ソファーにどつかと大あぐら。

首相登場

目にも見よ。

豊島で生まれて池袋で育ち、曲った學は大きれえ、弱きを助け強きをくじく男の中の男一匹、江戸っ子八つあんとはあつしの

事だ、聞けば小選挙区制とやら卑怯未練なコマカシで、票をかすめて憲法改悪、どっこいそはさせじの江戸っ子八つあん、

いや盗つとも、異常に勝負しろ／＼やいやい、そのブル

ドック貴様を鼠共の頭とみた、いざひつとらえてくれん。

お答えいたします。国民の大多数が、支持してくれないと確信いたしますので、只今の様なお話は誠にイカンに思ひます。

フザケルナ、手前の人気はどこえいつても最低だ、野戰病院の二

件でも、会場の集会でも、ねえ皆さん。

うへー、つかまつたら百年目、クワバラ、クワバラ。

逃がすもんか、この野郎！

拍子木に合せて立廻る。

語り 八つあんとびつきおさえ込む、悪事にかけて天下一、朱作風をつかまえた。

八 こいつは春から縁起がいいわい。（首相の首をおさえてほうり

出す）手前なんか何處かえ飛んで行け／＼

おーい今行くぞ。（主婦、労働者全員登場、テモ隊となる）こんな真中に入れて貰つて嬉しけ、へえ今度は、おふくろをつれて来ますよ。ええ、あっしの友達の熊公も留公もつれて来ます。あいつら何も知らねえですよ、あつし少し教育してやるつもりですがね。へへ……あらくものの团结で、風をみんな追いまおう／＼小選挙区制粉碎し、安保条約、破りすて、アジアの平和を守りましょ／＼

## もえ上る

### ベトナム解放の炎

劇団 労働芸術劇場  
構成 荒井敬亮

簡略な構成舞台  
客席暗転

音楽、やがて、合唱「自由ベトナム行進曲」に変つて、合唱の途中で幕が上る。

舞台中央にベトナム解放民族戦線の旗。その両側にはベトナム解放戦士が統をもつて立つ姿がシエルエットになつて、前面には解放戦士たちが戦斗への英気をやしなつている。1

音楽（B・G）—

—38—

解説 今年の四月七日、アメリカの大統領、リンドン・B・ジョンソンは、「アメリカはベトナム問題の平和的な解決を望んでいます。そのためには、関係諸国と無条件に話し合う用意がある。」と演説しました。しかしその後も、アメリカ帝国主義のベトナム民主共和国に対する爆撃は連日のよう続けられています。しかも、この恥しらずなアメリカ帝国主義者は盗人の盗人よばわりよろしく「ベトナム民主共和国が南ベトナムを侵略してい

る」と牢獄し、非難しています。しかし、眞実は全世界の人民の前に明らかになっています。美しい風土を持つベトナムに戦争の火をつけ、多くのベトナム人民を殺害していくものこそ、アメリカ帝国主義です。彼らは禁止された毒ガスを使用し、ナバーム弾でやき殺し、毒薬を使用して農作物や植物を全滅させ、平和な村々を破壊しています。いま平和を愛する全ベトナム人民は、祖国の平和と独立、解放の旗の下に固く団結し、アメリカ帝国主義者の非人道的な侵略行為に対して断固とした斗いを組んでいます。このベトナム人民の正義の斗いは、全世界の平和を愛する人民との強い連帯の中で、アメリカ帝国主義のアジアからの追放と平和の勝利をめざして今日も又、力強く前進しています。

兵士1 わたしは、ダラシク省北西部の村に居た農民です。そこで私のたちは、広い土地で自由に生活をしていました。一九六二年の五月に、アメリカとカイライ軍は県の中心に作った「戦略村」に移り住むよう要請して来ました。勿論、誰一人としてその戦略村に移り住むものはありません。自由を望む私たちが、どうして鉄条網と彼らの昼夜替らぬかんしの中で暮すことができるでしようか？ 要請にしたがわぬわたしたち農民に対しても彼らは、わたしたちの村をばくげきし、ナバーム弾で家をやき、作物をもやしてしまいました。彼らは私たちを戦略村に押し込めるためにありとあらゆる手段をこうじたのです。そういう非道きわまりないアメリカとそのカイライと斗うべく、わたしたち若者は銃をとり、解放民族戦線に参加しました。

兵士2 わたしは、元政府軍に居ました。そして多くの解放戦士と間違って戦争をして来ました。本当に間違っていたのです。いえ、何も知らなかつた、知らされなかつたのです。わたしは子供の時から貧しく、それ故に飢えていました。政府軍に参加したのも腹一杯食べられると思ったからです。でも、違っていました。腹一杯どころか、わたしたち一兵士たちは、食糧が常に自給自足。そのために軍は、村を攻め焼き、人の家の食物を略奪し、罪なき人々、子供たちまでも殺したのです。わたしは、ある村を攻めたとき、足に傷をうけ解放軍にとらわれました。政府軍の将校たちはベトコンに捕えられたら八ツ裂きにされ殺されるとおどしていましたから、捕われた時は恐しさで一杯でしたか、事実は違っていました。解放軍は私に、だれが私たちを貧乏にし、飢えさせているか教えてくれました。今こそ私は眞の敵に向うべく進んで解放軍に入れてもらつたのです。—

兵士3 私は解放軍に参加して十年になります。その間、私はたくさん彼ら反動共の非人間的な行為をこの目で見、又体験しました。彼らジエム政権は一九五八年の頃に、軍隊と警察、そして彼のすべてを、北ベトナムで土地を没収された地主によって占め、全国にファシスト体制をしいたのです。そして又あの悪名高い、第十番の法律「國家の安全に対する犯罪をおかす意図を持っていて疑われるいかなる者にも、死刑、又は終身刑で」と「ども」—この野蛮さわまるジエム一派の法律によつて、私たち祖国を愛して斗つて来た反フランス抵抗運動家を逮捕し、拷問し、虐殺したのです。そういう奴らの野蛮で反人民的強圧に抵抗して、私たちは再び武器をとり、住みなれた村を離れ、解

として提供したの？

放軍を組織して密林や山に入ったのです。ベトナム人がベトナム人と戦争をな

キエン .....。

くみ、祖国の統一と平和を願っています。それ故にこそ、かつて私たちには日本帝国主義とフランス帝国主義の侵略と斗い、そして今日アメリカ帝国主義の侵略を対して斗っているのです。ベトナムの平和と繁栄はベトナム人民によつてのみ始めて創り出されるのです。歴史の歎車を逆転させようとする野蛮なる彼らの侵略に対してベトナム人民は断固、不屈に斗ってきました。

キエン 言つて／＼

青春を創りなおそよ。・・・ぼくらは、よく腕を組んでサイゴンを歩いたね。君は歩きながら、美しい声で「青春の歌」をうたつてくれた。・・・楽しかったなあ・・・。

リン キエン／＼云つて／＼あなたは何を代償に私を釈放させたの？

キエン リンの鋭い問いに、瞬間あわてて）君が考へているよう

な代償なんて何もないさ。ねえ、リン、何が不服で、そんなこと聞きたがるんだよ。

リン うそ／＼うそよ／＼あなたは逃げている。

キエン うそなんか／＼けど、それがたとえあつたとしても、

それは、君を早く釈放させてあげたいと思うぼくの愛情の強さじやないか。ねえ、リン。二人だけの幸福をつくつていこうよ。

リン キエン。多くの人々が祖国の独立と解放のために、自分を捨てて斗っているのよ。あなたは、この現実から逃れて、自分だけの幸福をつくろうといふのね。私は嫌よ。私は斗っていくの。

キエン リン。ぼくに誓つてくれないか。再び過激な活動はしないと。ねえ、リン、誓つてくれ／＼そうでないとこのぼくが困るんだよ。ぼくは、君に再び過激な活動はさせないと証言して、誘書に印を押してきたんだ。もし君が再び活動すれば、今度はぼくも同罪になるんだよ。

リン キエン、あなたはそれが恐いのね。

キエン .....。

リ キエン。あなたは私を釈放させるために、奴らに何を代償

キエン やめよう。そんな話。

リン 奴らは、私を監獄に押し込めて、私を変えてくれたわ。私を強く生き抜く人間に／＼キエン、奴らが私たち学生にどんなことをしたか、話してあげる。

リ ン いえ、私は話すわ、話さずにはいられないの／ 私たちは、

兵隊 うるさい！

臭氣あふれる六畳ぐらいの部屋に十八人も押し込められたわ。

婦人 袋を返しておくれ。

そして一人一人拷問の場につれ出されたの。身につけていたイヤリングをむし取り、そこに電線をさし込んだのよ。そんな拷問が絶えず続けられたわ。それだけじやない、私たち女子学生は飢えたけたもののような兵隊たちと一緒に水浴もさせられたわ。奴らに強姦された人は五百人以上いるわ。妊娠した人もいるわ。けものの子を／ キエン、私もその一人よ／

兵隊 軍の命令だ。つべこべ言うとお前を捕まえて行くぞ／ 婦人 その袋は、その米はなあ。メチャクチャなお前らの爆撃の合間に一生懸命耕やし、酷たらしいお前らの毒薬から守つて刈り取った大事な米だ。そんなにして作った米を自分の子供を貪りさして、お前らに盗られるわけには行かないんだよ／

兵隊 邪魔だ、そとをどけ！

キエン やめてくれ／ やめてくれ／

兵隊 婦人 どかなかい。お前がその袋を置いて行くまではな。

リ ン キエン 私は苦しみを、この身にうけるたびに、自分が強くなつてゆくのがわかるの／

兵隊 婦人 お前にだつておふくろさんがいるだらう？、もし、お前のおふくろさんがあたしと同じ立場にいたら、きっと、あたしがしていると同じにするさ／ 母親が子供のひもじい姿を黙つてみていらるるかよ／

リ ン キエン あなたは、そんな私を放放させる代償に、多くの仲間を奴らに売つたのね。私一人のために、大事な仲間たちを。その人たちとは、あなたの裏切りのために、やつらのむどうたらしい拷問にかけられるのよ／ キエン 私はあなたを許さない／ 私は奴らと同様あなたもすべての人々に告発します。

### 一 暗転 一

兵隊 我のところは、お前のところのようにベトコンじやないさ。いいか、お前の亭主はベトコンダ。つまりお前だつてベトコンの女だ。子供だつてベトコンの子供だ。飢えて死にや、それだけベトコンが滅つて大助かりさ。

婦人 遠う／ 遠う／ うちのひとは百姓だ。それをお前らがベトコンだと言つて、酷たらしく殺したんじやないか／ 木瓶に頭を押し込め、腹をさしてお前らが殺したんだ。

兵隊 ふん、お前のいうことなんか信用出来るか。

婦人 スポットは、強奪した米袋を肩にかつぎ、手にニワトリを持って去ろうとする政府軍兵士と、その兵隊を追いかけてとりすがる婦人を、とらえる。

婦人 その袋を、袋を返してくれ／ それを取り上げられたら子供たちが飢えてしまうよ。

兵隊 百姓がベトコンなら、ベトナムの百姓はみんなベトコンだよ。お前ら兵隊は、そのベトコンの百姓が作った米を喰つて育つて来たんじゃないかな／ そのベトコンの百姓をお前らは殺して

きてるんだ！ この恩知らずの畜生奴が！

兵隊 ……（不安とあせりの表情）

婦人 さあ、米袋を返せ！ 袋を返すまでは死んだって動くものか！

兵隊 ええい！ この女奴！（兵隊は必死にうさがる婦人を足で

ける。そこへ婦人の子供がとんで来て）

子供 かあちゃん！ かあらやん……（兵隊をきつと見て）畜生！

アメリカの番犬！

兵隊 （憤然として）このガキ奴！ 親が親なら子供まで、畜生！

（子供を切る）

子供 ……（倒れ痛さにたえながら）袋をかえせ！ 袋を返せ！

袋をかえせ！（と兵隊にむしやぶりついて行く）

一 暗転 一

ケー

スポットは下手で作物の手入れをしてゐる、ケーの母をとら  
える。娘ケー、 かあさん、 かあさん、 と叫びながら駆  
けてくる。

母

母 そそんに急いで、額中、汗だらけじやないかね。

ケー かあさん……（とひつてかけよる。目に涙）

母 （ハツとして、娘の身体をゆすり）ケー、どうしたんだね？

姉さんに何かあったのかい？

ケー 母さん！……（ケーはこの場にきて、この事実を知らせるべ  
きかどうかとまよう。）

母 さあ、はつきりと云つておくれ！ 姉さんに何かあったんだ

ろう！

ケー

（決心して）かあさん。姉さんは解放軍に食糧を運ぶ途中で  
敵にみつかり、姉さんたち三人の人が政府軍に捕つたの……

今、ルオンおじさんが知らせに来てくれたのよ……

ケー ルオン、おじさんの話だと……兵隊たちは、姉さんたちを、

その場で拷問にかけ、……

ケー かあさん！（こらえていた怒りと悲しみが爆発する。そし  
て母親にしがみつき泣く）

母 それで！

ケー

母 さあ、しこりと話すんだよ。母さんは、どんな話でも聞  
いておかなければならないんだよ。この耳で、ちゃんと聞いて

おくんだよ。

ケー

（しぶらくして、泣き止してくるケーの髪をさすりながら、  
さあ、ケー。涙をおふき。そして、姉さんに替つて、お前も解  
放軍に行くんだよ、姉さんや兄さんや皆んなのかたきをうちには

…ケー、もしお前が倒れたら、最後にはこのかあさんが行く  
よ。そしてたとえ、このタツト一家が死にたえても祖国の解放  
のために、あの悪魔のようなアメリカやジエムのカイライト斗  
つて行くんだよ！

スポーツは一人の学生を照らし出す。その後方には椅子にも  
たれ坐っている女装した男がいる。ここサイゴンの街は狂つ  
たように騒ぎ立ててゐる。

学生 うるさくなあ……革命記念日、國の祭りだからってこんなに

馬鹿騒ぎする事なんかないじやないか。ゴ・ジンジエム独裁政  
權はアメリカと軍部将官の手によって計画的に倒されたんだ。  
だからベトナム人民の生活は良くなつてやしない。それどころ  
か民政、軍事政權とめまぐるしく替るサイゴン政權のもので、  
ベトナム人民の生活はますます苦しくなつて來ているんだ……。  
この騒ぎ、僕にはこの騒ぎが、サイゴンの断末魔のように思え  
る。

バオ (一貫してつぶやくよう) 麟のチャウも、映画を観に行つ

た帰りに軍隊につれて行かれてしまった。

学生 自由兵役制なんて真赤なりそさ。ほくたちを捕えれば検査も

しないで軍服を着せてしまう。

バオ でも、五万ビアストルあれば……こんな格好でうろうろする

ことなんかないんだ。五万ビアストルさえあれば……

学生 逃れる事が出来ると言うのか。

バオ ……。

学生 ほくたちのような息子を持つてゐる親たちは、自由兵役制の

恩典にあずかるうと、いろいろお金の苦面をする。最低二万ビ

アストルから五〇万ビアストルまで……。その金が徴兵官や、

その将官達の手に入る。でも、その金を出したからって安心な  
んか出来るものか。前にウヨウヨしている警官達も、その恩典

にあづからうと、街で青年達を見つけては千ビアストルから一千ビアストルもたかる。警官達は金をもつた後、さも恩着せがましく、派手な所には出て来るなよ」とお説教をして行く。

バオ、この国には憲法もなければ、法律すらないんだ。アメリカがベトナムで犯している一切の犯罪行為に対しても……。日本から来る援助物資のトランジスター・ラジオや医薬品が、軍事将官の手から横に流れてしまふ……。それらすべてを裁く法律がこの国はないんだ。

バオ ほくはサイゴンから、いや、ベトナムから逃れたい。

学生 バオ、君はすでにベトナムから、いや地球から逃れているんだよ。

バオ 逃れてなんかいるものか。ほくはここにいる。ここに坐つて

くる。だから不安がいつもある。

学生 そう、いる。でもそれはベトナムの影となつてここにいるんだよ。

バオ ベトナムの影……。

学生 君は、ベトナムの影となつて存在しているだけさ。もう君が人間であるなら、青年であることを立証したまえ。そして青年であるなら、このベトナムをしっかりと見たまえ。同胞が同胞と殺し合つてゐる現実をしっかりと見たまえ。ここから逃れることは人間なら出来ないし、青年ならなおさらだ。ほくた

ちベトナム人は平和を愛している。戦争なんか欲していない。この時、学生の妹がかけ込んで来る。

妹 兄さん、兄さん、ビエンホア基地が解放軍の手で爆破されたのよ。

学生

解放軍がビエンホア基地を…。バオ、聞いたか、解放軍の力、いや、ベトナムの若い力は、要塞堅固の基地だって爆破させることが出来るんだ。

バオ 守護の基地、ビエンホアが…。

\*

スポットは新聞記者を照らし出す。

記者

かつて、フランスがインドシナの「きたない戦争」にまきこまれていた当時、アメリカは事態を現実的な光の中で正しく見る指導者には事欠がなかつた。まだマサチューセッツ州選出議員だつたクネディ大統領が、一九五四年四月六日に述べた言葉は、冷静に事態を観察した帰結とさうほかない。

マイクからの声 遠い未来の勝利とさうあてさえなくインドシナの

ジヤンクルに金と物と人をつぎ込むのは、恐ろしくむだであり、有害である。インドシナにいくらアメリカの援助をつぎ込んでも、至るところにて、またどこにもい敵一人民の共感と支持をもつ敵を、征服することは不可能である。

記者

ケネディのこの言葉は、十年前の当時より、今日一層真実であるだけにかえつて有名になつた。しかし、それよりさらに一年前、スチーブンソンがインドシナを訪問したあと、パリで公にされた言葉も、これに劣らず適切であつた。抗仏戦争が進展している事態を正当に評価したあととのちのアメリカ国連大使スチーブンソンは—

マイクからの声 ここにフランスが当面する、驚くべき大きな困難

守備兵2 サイゴン側の前哨拠点。守備兵1、守備兵2が立つてゐる。  
守備兵2 皇郷的なメロディの歌が聞えてくる。  
守備兵1 今日も又歌つてくる。。。

守備兵2 ……歌を歌つてゐるのは誰れだ返事をしろ！ 撃つぞ！  
守備兵2 は闇に向つて五、六発撃つ。歌は一時止まるが、又流れてくる。

守備兵2 ……。

娘の声 チヤン…。チヤンさんね。あたし、あなたのいとこのテ

イランさんの友達よ。ティランさんもここにいるわよ。

ティラン チヤンさん。ティランよ、解る何故擊つの？ あんた

や、お友達が寂しさがつてゐると思ったから、あたし達歌をう

たひにきてあげたんじゃないの。

守備兵1 うとこつて本当なのか？

守備兵2 .....

守備兵2 .....

ティラン チヤンさん聞いてゐるの？ あんたの村にとてもいいニ

ュースがあるわ。チーちゃんが学校でとてもいい成績あげたわ

よ。

守備兵2 チーが学校に行つてゐる？ そりや本当か？

ティラン 本当よ、チヤンさん。村は解放されて、お金がなくとも

皆学校にいけるのよ。

守備兵2 .....

ティラン 川に沿つたとてもいい土地が、あんたのためにとつてあるわ。兵隊に行つているお友達の分もよ。

守備兵2 ウソだ！ ウソだ！ 土地なんか俺達が一生かかつて持てるわけがない。みんなウソツ八だ！

ティラン 解放軍はウソをつかないわ。あなたの土地が本当にあるのよ。今はあなたの土地をあなたのお母さんが一人で耕やしてじるのよ。

守備兵2 .....

ティラン チヤンさん、どうして政府軍なんかにいるの？

守備兵2 .....

ティラン 今のうちに帰つてらっしゃいよ。ヤンキーへの忠義だて

なんかいじかげんにしなさいよ、ねえ、チヤンさん（と言つ

て下手にそっと顔を出す）

守備兵2 .....

守備兵2 .....

守備兵1 チヤン！

守備兵2 うまうこと言って俺をだまそらとしたつて駄目だ。本当に撃つぞ！ 行け！ 行つてくれ！

守備兵2 は統をティランの方に向ける。ティランはじっとチヤンを見つめているが、すばやく姿を消す。

守備兵1 チヤン！

守備兵2 守備兵2は統をティランからはづして撃つ。一間！

守備兵2 ティラン！ おふくろ！

一 暗転一

ミト省にある村落をアメリカとカイライ軍はむごたらしい掃討作戦をおこなつた。それに抗議して数千人の群衆、とりわけ婦人が省都にデモをおこなう。統を構えた兵士の固い壁が一行を待ち受けれる。

女1 みなさん、あんたがたは、私の子供みたいなものね。私の息子も一人、あんたがたの軍隊にいるよ。（写真をみせる）ほら、そっくりだろ、あなた方に。。。もし、私達をうてば、お母さんを受つようなものだよ。後の若い人を撃つのかね。そりや、あんた方の奥さんを撃つみたいやないかね。この人達の旦那さんも、あんた方の軍隊にいますよ。私達、何故ここに来たと思う？ 部落があんた方によつて焼かれ、部落の多くの人

達があんた方に殺されたからだよ。もしかすると、殺され、わ  
るさされたのはあんたの方のお母さんかも、奥さんかもしねい  
んだよ。ウソだと思うなら、うちの部落にきてみるがいいよ。

指揮官 つべこべ言うな、それ以上前に出るとようしやない撃つ  
ぞ！

役人 解散しろ！ 解散しろ！ 解散するんだ！

兵士ら銃を群衆に向ける。

女1 私達は丸腰だよ、私達はあなた方をやつつけに来たんじや  
ないよ、ヤンキーやあなた方が部落で犯したことに対して、  
役人に保護してもらうために来たんじやないか、そのあたし  
達を撃つのかね。

女2 その弾丸は、みんなの敵をやるのにとっときな、

女3 そうだよ、そいつらが、あんたたちのおふくろや娘さんを  
殺しているんだから。

女1 さあ、撃ちたきや撃つがいいさ、でも言つとくが、それ  
はあんたたちの嫁さんやお婆さんの顔に泥を塗ることだよ！

群衆は一步、兵隊たちに向って前進する。

指揮官 （ふるえて）舉て！ 槍て！ ええい、撃てたら撃て！

群衆は又、一步前進する。兵隊たちの構えた銃は重く下がり  
後ずさりする。

指揮官 ええい、だらしのない奴等だ、見てろ！

指揮官はピストルを手にとるや、先頭の若い女をうつ。倒れ  
る女2

女4 テイラン（倒れた女の身体にしがみつく）

女2 みんな、前へ……（絶叫して息絶えた。）

女4は女2の旗をとつて出たところを指揮官の狂った弾丸に  
よって倒れる。女3が旗をきつとままでデモの先頭に立つ。

指揮官 撃て！ 撃て！（育さめて氣狂のようにわめきちらし、叫  
ぶ。）

デモは犠牲となつた女2・4をだきかかえて怒りとともに前  
進する。

一 暗 転 一  
しかし登場人物は動かずボーズをとつてシ美ルエットのまま。

詩の朗説 “燃えるベトナム” （浅尾忠男）

燃えるベトナム

クアンケ ソンバン

北ベトナムの道路と家々  
火をよく米軍ジェット機

東シナ海をへだてた戦火のほてりが

ぼくの頭をやき 煙をこがすのは

二十年前 火と煙の中をにげのびた

少年の日の死のおそれ

あの戦争の日々をおもい起こすからなのか

燃えるベトナム そこで

死をおそれているのはアメリカ兵だ

かれらは生きのびることをねがつていてるが

かれらの夜のふかさは

十五年前の朝鮮の夜につづいていく

そのとき 燃けるトタン屋根の下

汗ばむ胸をはだけて寝床についたままの

結核のぼくをおそった夏の日々

朝鮮人が朝鮮人を殺す戦争

ふたたび きのこ雲が中空にわきあがるかもしれない

という不安に眠れぬ夜をすごし

△原爆反対△のストックホルム・アビールに署名したのは

ぼくやぼくらではなかつたか

燃えるベトナム

サイゴン ピエンホア

南ベトナムの街と軍事基地

そこで死をおそれているのはベトナム兵だ

かれらは平和を夢みて疲れている

かれらから平和と家庭をうばつているのはだれなのか

一九六〇年 あのヘ安保△闘争の中で

ぼくらは知ることができたのだ

アジア人がアジア人とたたかう

血の未来を拒絶することを

帝国主義者の侵略から祖国の独立をかちとるために

たたかうの武器をとることを！

ベトナム人民軍兵士

ベトナム解放民族戦線の兵士が

その右手に銃をとるよう

燃えるベトナム

アジアと世界の革命の塔

そこで死をおそれているのはアメリカ帝国主義者だ

かれらは勝つことを夢みているが

かれらの敗北は決定的だ

いま、ぼくらが眠れぬ夜をすごすのは

ベトナム人がベトナム人を殺す戦争に反対し

核兵器がベトナムの大地と空で炸裂することに反対し

戦争の夜の暗さをあばきだし

アメリカ帝国主義者のおわりをみとどけるためである

ベトナムから  
東シナ海につながる  
台湾と朝鮮  
沖縄と日本本土から

すべてのアジアの大地と空と海から  
アメリカ帝国主義者を追いだし  
太平洋のかなた

二十世紀の最後の落日にただれる

アメリカ大陸までかれらを追いつめる

その日まで ぼくらはたたかいつづけよう

ぼくらのこころの中で燃えるベトナムの怒りとともに

たたかいつづけることを誓いあおう／

詩の終りあたりから舞台は明るくなつて行く。

合唱「南ベトナムを解放せよ」が力強く流れる。

「ベトナム人自身によるベトナム問題の解決」「外人犯罪者

をベトナムの法律でさばけ！」「ベトナムの平和は民族の統

一にもとづくべきことを政府は認識せよ！」「ヤンキーゴー

ホーム」等の横断幕を持つたベトナムの労働者、市民、学生。

舞台前面は、解放軍兵士、民兵。舞台全員は合唱に合せて力

強い足音をひびかせて客席に向つてゆっくりと前進する。

一幕 一

アメリカとカイライ軍に  
焼きはらわれた家を建てなおし  
おいた雑草をぬいて

## イエンの手紙

—新日本新書へ南ベトナムの手紙より

京浜協同劇団

黒沢 参吉

吉

娘 なつかしいあなた

今日は私の生涯の最良の日でした

私はいま 村の自衛班の

指導委員会にえらばれたばかりなのです

それで このお便りをするわけです

男A 二ヶ月前 おれたちは

柵と鉄条網でおれたちを閉じこめていた

戦略村を破壊して

自分の村へ帰った

男B おれたちは

桑や砂糖キビを植えつけた

女

メコン河はゆたかにふくらみ

桑の緑が五月の陽に輝き

とうもろこしは背よりも高くのび

村は今 よろこびでいっぱいです

娘 さて どうして私が

自衛隊に参加するようになつたか

お話ししますようね

以前私は 自分が銃をもつたり

まして 敵とたかうことなど

できると思つたこともありませんでした

あなたはよく 私の手をとつて

そうめんみたいにやわらかいと

からかつたわね

私も笑いました

でも 本当は私怒つていたのよ

だって 子供のときからずっと

桑の葉をつむこと はたを織ることしか

しなかつた私に

どうして あなたのような

頑丈な手をもつことができたでしょう

母 それが 村の女のくらしだったのだよ  
お前たちの父さんを殺した

憎じフランスのどろつきどもが

このベトナムから追いだされた日

私は 幼いお前たちを抱いてこう云つた

さあ 平和が生きがえつたんだよ

もつと沢山お蚕をかおう

とうもろこしや水瓜を植えよう

それから 家鴨もふやそり

老人 ところが

アメリカとサイゴンの軍隊は

わしらの夢をコナゴナにくだらいてしまつた

男A やつらは 村の入口と

河の舟着場に 噴所をたて

桑の木をきりたおして

おれたちの土地を演習場にした上

村全体を 柵で囲んでしまつた

男B 自由に畑を耕やすことも

隣同志がゆききすることも禁じられ

夜はあかりをつけることも禁じられ

それを杞そらものなら

ベトコンと内通している

破壊活動をやつている という名目で

告発され 次には牢獄と拷問がまつてひた

やつらは 米や鶏や家鴨や卵を

勝手気ままに徵發するばかりでなく

酒によつては若い娘を追いまわし

みだらな乱暴をはたらきました

老人 だが わしらは

牢獄の中みたいなこんな生き方を

いつまでも我慢していたわけじやない  
わしらは ひそかにルートで

解放民族戦線とつながった

男A たたがいが組織され

無法に抗議し 自由を要求する代表が

つきつき 町へ派げんされた

男B やつらは

おれたちの要求に威嚇射撃でこたえ

しまには 何人かに傷まで負わせた

母 その上 悪党どもは

私たちの家を焼きはらって

有棘鉄線の戦略村に 閉じこめてしまつた

それでも 私たちは屈服しなかつた

夜がくると

頭丈な禍 もとわされ 武器が盗まれ

道路が掘りかえされ スパイの家は焼かれ

裏切分子は処罰されたのです

それはけしかいたたかいの時期を

私がどんなふうにすごしたか

恥ずかしいけれど うち明けます

私はデモにでかける人たちの食事をつくり

のことされた子供たちの世話をしました。

けれど

デモや破壊活動には

一度も参加しませんでした

そう イエンは姉のハイとちがつて

会合にもでて行かないし

敵の容子をさぐろうと

哨所のまわりに近づいたらもしない

だつて 私にもしものことがあつたら

誰が母さんのめんどうを見るの

ハイ姉さんが

お前のぶんまで 活動してくれている

そう思つてゐるんだね イエン

ハイ姉さんは

私の誇りよ 母さん

デモの先頭にたつて行進したり

解放軍に食糧をはこんだり

正義のためのみんなのたたかいに

身も心もうちこんでいる姉さん

でも 姉さんのように強くなれ

と云つたつて それは無理

私はこれで精いっぱいだわ

筆に墨のマネをおしとはいわないよ

はたを職らせたら

イエンは村の誰にも負けないんだから

娘 私だって なにも

自分のことだけ考へてゐるわけじゃないわ

だけど 今のように活動していたら

姉さんに おもいがけない不幸が  
やつて来ないといえるかしら

もう少し家にいてくれるよう

活動をひかえた方がいいって

母さんから云うべきだとおもうわ

あの子に そんなことは云えないよ

私は年をとりすぎたし ハイは

私の代りをしてくれていいのだからね

もしも 私たちが斗わないで

やつらのほしいままにさせていたら

祖国統一の日は決してきやしないのだよ

娘 統一の日

何という魅力にみちた言葉のひびきでしよう

私は あなたのこと

そのことだけを考へるのです

西風が吹いて

メコン河の水が増えはじめると

重い心を抱いて 私は咳くのでした

早くおいで 統一の日よ

老人 それは五月のある夜のでき事だった

わしは 知らせをもつて

ハイの家をたずねた

イエンは いつものように

はたを纏つていだし 母親もお気に入りの昔話の本をひらひて  
いた

なにをつったつているんだね

イエン

サウおじさんに お茶をおあげ

老人 茶はいらんよ イエン

勇氣をだしておくれ

ハイは

ハイは たつた今 死んだ

とむらいは 今夜だ

娘 この知らせは 一舉で私をうち碎き

どつと涙がこみあげてきました

母はといえば 影像のよう

じつと身動きひとつしませんでした

話しておくれ サウおじさん

どんなふうだつたんだね

老人 ハイが きめられた連絡場所に行くと

沼のわきの繁みに

敵の伏兵がかくれていやがつた

やつらは 解放軍の幹部を

そこでつかまえる計画だつたんだ

幹部が 森の中からあらわれたとき

カヌテラをふりながら ハイは

ここに敵がいると叫んだ

幹部は 森に姿を消したが

やつらの一せい射撃で ハイは

あの子は どこにいるの

一日会わせておくれ

老人 ああ あの子は待っているよ

母 留守をたのむよ イエン

家中でじっとしていろんだよ

娘 母はサウおじさんとつれだつて

出て行きました

私は すばやく戸締りをして

二人のあとを追いました

男A ハイは サウおじさんの家の

大きなベットに横たえられている

中庭は人で いっぱいだ

男B おふくろは 骨と皮ばかりの手で

死んだハイの まつ黒な髪をなでつけ

そっと目を閉じてやる

女 まわりの者は 彼女に

なぐさめの言葉をかける

彼女は 肩からはずしたショールで

わが子の顔をおおいながら答えました

母 私は 一つのことだけが口惜しい

それは この子の復讐をする息子を

もう生めないとこうことです

娘 この日から

母は ますます無口になりました

そして 好きな本を読むことも少なくなり

そのかわり

よく出かけるようになります

夜も とても遅くなつて帰るのです

私が どうにも我慢できなくなつたのは

あるどしや降りの晩

全身ずぶぬれになつて

母が帰ってきたときです

娘 一体 どうひうつもりなの

この上 母さんが病気になつたら

私はどうしたらいいの

イエン この綱を織りあげたら

お前のはた織り機をかたづけておしま

もう売れることがあるまいからね

町は アメリカや日本の機物で一ぱいだよ

お前は 隣村の叔父さんの家へ行つて

そこでくらすのだよ

娘 じゃ だれが

母さんの世話をするの

それから 私のお蚕は

母 今じゃもう お蚕も畑も

どうでもいいことになっちゃったのさ

私がよく出かけたのは

お前を無事に守ってくれるところを

さがしていたのだよ

私ひとりなら サウおじさんの家にでも

厄介になれるからね

いやだわ 母さん

かわいそうな姉さんが

私たちをのこして死んでしまったのに

離ればなれになるなんて

お前は ここにいらぬないんだよ

カイライの司令官が お前に

色目を使つてゐるのを

だまつてみちやいられない 母さんは

娘 それは 本当のことでした

カイライ軍の司令官は

用もないのにやつてきては

はた織り機のそばに陣どつて

クドクド 話しかけ 私を説ませました

男B それでと

お前は誰を待つてゐるのかね

花といふものは だな

しほまなううちに つみとられてこそ

幸福といえるんじゃないかな

ところで お前のいい男は

北にいるんじやなかろうな

いいえ

私たち結婚していんです

夫は 町で運転手をしていきます

男B 気をつけるんだな

大切なことは かれが

北にいるかいないかじやない わしには

かれが北にいると決定する

権限があるという点だ わかるかね

どうかな そんなアテにならない男に

青春を捧げるのは 深巧な女の

やることじやないとおもわんかね

娘 私は 母にいました

母さんと一緒にここにくるわ

たとえ 殺されても

飢え死にしなければならなくて

私たちは せめて 一緒にひましようよ

母は それ以上云ひはりませんでした

男A おれたちは

集会に集会をかさねる

老人 わしらの要求をかかけて

町へ 市へ デモをおしだす

敵はさまざまな弾圧を加える

そのたびに 私たちは強くなりります

娘 ある朝 私は

眠つてゐる間に母が出かけて行つたのに  
気がつきました

お昼近くなつて 従妹が来て云いました

イエン お母さんの

ショールをちようだい

どこにいるの 母さんは

デモに行くのよ 私たちと

何ですって 母さんがデモに  
どうしてもって きかないの

だけど大丈夫 私たちがついているから

ショールを早くして

娘 母は

夜になつて やつと帰つてきました  
デモに行つたことは

何も話しませんけれど

どことなく元気そうでした

その日から 母の大きい悲しみが  
少し庵うされていくようにみえました

男 A アメリカとカイライ軍は

解放軍のはげしい攻撃をうけて

おれたちの村をふくめた  
広大な地域をうしなつた

かれらに毎力していた

町の警察署長も殺された

男 B 敵は失なつた区域をとりもどそようと  
試みたが、何回も失敗におわり

とうとう 逃げ路をひらくために  
救援部隊を空から送りこむ始末だつた

老人 そして 二ヶ月前

解放軍に協力する わしらの  
ゲリラ活動の隕にひつかかつて

帝国美とサイゴンの軍隊は ここに  
戦略村を放棄しないわけにいかなくなつたのじや

私たち

村に 自衛班を組織して

一方で生産し 一方でたたかいました

娘 私はずつと苦しんでいました

一人ではたを續つてしまても

あなたが出发前 私のためにと  
影つてくれたはた織り機の舞までが

こう囁きかけるのです

この子の

復讐をする息子をもう生めない

こんどの手紙にかきます。

それに ハイ姉さんや

グエン・バン・チヨイのように

たたかつ人たちのことを考へると

そんなことは

つまらない どうでもいいことです

私が

あなたに 一つお願ひがあります

アメリカ帝国主義を追いはらつて

あなたが私に再び会う 祖国統一の日に

もし不幸にも

私が不具になつてゐるのを見ても

たとえば腕がないとか

それとも 酔くなつてゐるかもしねない

私をみても あなたは

やつぱり誓いを守つてくださるわね

あなたの答えが

私にとつて どんなに大切か

あなたはよくご存知ね

私の方は どんなことがおころうと

ただ 一つの言葉しかないので

あなたはご存知です。

これにつけ加えることは何もないのです

一 河の魚が はるかに泳ぎ去つても

そんなことはどうでもよし

必要ならば 私は千年でも待つ

こう 私は考へていますし

そう あなたにお約束します

あなたの許嫁の イエンより

## ヴエトナムの 火は消えない

劇団はぐるま

語り手A この物語は、一九六四年十月十五日、アメリカの命をう

けた、サイゴンからいらい政権によって銃殺された、南ヴエトナ

ムの英雄グエン・バン・チヨイと妻ファン・ティ・グエンの物

語である。

B 丁度、この年、私たちの祖国ヴエトナムでは軍事顧問団と称す  
るアメリカ軍は二万から五万に増強され、連日かいらい軍を指  
揮して出撃、ナバーム弾の雨を降らし、ジャンクルや水田の稻  
を枯らし、祖国の山河を荒らしまくっていた。しかし、彼らの  
支配するのは点と線のみ、いや、点のみであつた。彼らの根拠  
地サイゴンですら、彼らにとつては安全ではなかつたのである。

母は私を 本当に

信じてくれていないのかもしだい。

そう考えるのは

死ぬほどつらいことでした。

ある日 私は母に云いました

どうして 母さんは

私と一緒に行つてくれと云わないの

イエン それは

お前が云う程簡単なことじやないんだよ

お前は 待つた方がいいのだよ

母さんは私が ずっと

嫁のままだとおもつて いるのね

母 つよく生まれついた者もいるし

そうでない者もいるのさ

誰もお前に ハイのように生きなさい

とは云えやしない

老人 ところが次の日

母親が出かけるやいをや イエンは

自衛班の指揮官をみつけるために  
はた織り機の方はほつたらかしこ

家をとびだしてしまいました

男A おふくろが どんな具合に

すっかり変つちました

イエンとでくわしたか 想像できるかな

男B おれたち自衛班は

舟着場をみおろすなぞえに散つて

射撃訓練のまつ最中だつた

生まれてはじめてうつた 続の反動に

よろめきながら

イエンが立ちあがつたとき

これを見ていた人々の中から

一人の女がかけよりました

母 なんていうお茶目な子だろう

イエン どうして

私に何も云わなかつたの

娘 だって母さん

母さんだつて デモに行くとき

ひとことも恥じ

話しちゃくれなかつたじやないの

娘 あら 大変

夕方になつたのに 私まだ

ご飯をたいていなかつたわ

母は もうすぐ帰つてくるでしよう

あなたに手紙をかいて どの位の

時間がすぎてしまったのかしら

自衛班の指導委員会に

どうしてえらばれたのか それは又

はげしい砲弾、機銃、爆音、炸烈音、そして静かになる。

好きなマンドリンでもひこう。

C

東洋のパリといわれたこの都市は、熱帯性の街路樹が、強い太陽に照り輝やく緑の町であった。しかし、その裏には、享樂が、貧困が、権力が、腐敗が、そしてまた、民衆の怒りとエネルギーが渦巻き混在していた。

A クエン・バン・チヨイは、平凡でむとなし、何の政治意識を持ちあわせていない、ここサイゴンの「電気労働者」であったのである。彼は美しい恋人ファン・ティ・クエンと親類縁者や友人の祝福をうけ結婚した。

ヴエトナムの音楽、みんなはしやぐ声。

クエン 私のチヨイ、本当にしあわせにしてね。  
チヨイ うん、どんな苦しいことでも一人で切り抜けて行こう。君となら、どんなことでもできるような気がする。

クエン (チヨイの胸にもたれ)まだ、楽しそうにやってるわ。戦争があるなんてとても思えない位。私のお母さん、とてもあなたが好きなのよ。私より、うふふふ……。あんたお母さんいなから、私がお母さんになってあげるんだって。その指輪大切にしてね。お母さんが買ってくれたんだから。あんたせいにくだなんて言つたけど、お母さん買いたかったのよ。

チヨイ うん。

クエン 戰争にあんたがとられたら、私、気が狂ってしまうわ。

チヨイ さあ、みんなの所へひつて二人で歌でもうたおうや。僕の

B

こうして二人の甘い、可愛い新婚生活は始まつた。しかし、それを続ける条件はヴエトナムにはなかつた。その前年、クーデターによって悪名高きゴ・ジエム政権は倒れたが、その後のかいらい政権も腐敗し、クーデターの統発で混乱を極めていた。いらだち焦る、アメリカの軍事的テコ入れもインフレを呼び起すのみで、反政府運動は日増しに強まっていつたのである。

デモの声大きくなる

この泥沼からの抜け途を探し、叱咤激励するため、マクナマラ国防長官は再三再四、直接現地にとんだ。三月に、さらに五月に、ラスク長官と前後して、サイゴンを訪れたのである。そしてその度毎に侵略は拡大していく。

労働者風の男三、四人

男

これで全部集つたか、上部橋閣から、サイゴン支部への指令を伝える。こんどのマクナマラ国防長官の訪問は極めて重要である。アメリカの新聞によればフォートベニンク特殊部隊訓練基地では、ヘリコプター戦術の準備を完了、実施を待つばかりとじつである。米軍をさらに七万ないし十二万増強する予定らしい。一切はマクナマラ国防長官の視察により決断はくだされる

のだ。それに備え、上部機関は次のように決定した。

一つ、できる限り反政府デモを組織し、グエン・カーン政権を  
やさぶること。

一つ、同時に、マクナマラ国防長官の通過する空港とサイゴン  
の間のコンリー橋、この橋、または道路を爆破し、敵に動搖を  
与えること。これは別に無理しなくてもいい。

地図を中心相談はつづく。

C 語り手曰 ところが、新婚まもないグエン・バン・チヨイが、この  
重大な任務を志願したのである。彼は表面おとなしい労働者で  
あつたが、祖国の現実は彼を自覚めさせにはおかなかつた。  
そして、すでに結婚前から、ベトナム人民革命青年同盟に属し  
ていたのである。もちろん、妻のファン・ティ・グエンも知らなかつた。新婚早々、夜おそくなるのが不満ではらあつた。  
警戒は厳重を極めた。調査は綿密に行われた。しかし、百歩成功するといふ確信はついたに生まれてこなかつた。残されたのは  
決断だけである。  
サイゴンの町は、まさに死の町であつた。

男たち消える。

軍靴の音

C 夜を徹してパトロールが行われた。

そして遂に断はくだされた。

別の部屋で

警笛の音。自動小銃の連続発射音。走り去る草靴の音、狂つ  
たようなサイレン。

しかし、嚴重なる警戒網を突破することはできなかつた。だが、アメリカ、及びかいらい政府の憲兵、警察は狂つたよう  
にサイゴン市内をかけめぐつた。

マクナマラ国防長官も肝を冷やし、空港からヘリコプターで  
直接、大使館に送りこまれた。

しかし、新婚十九日にして、グエン・バン・チヨイは牢獄  
の身とならざるをえなかつた。

刑事1 お前に指令した奴は誰だ。

チヨイ .....

刑事2 おい、まだ捕い目にあいたいのか。そりや、お望みなら  
くらでもかなえてやれるがね。どうなんだ。

チヨイ .....

刑事1 誰の命令をうけ、仲間は誰れと誰とこうことを話してくれ  
りや、いつでも可愛いいい奥さんところへ帰してやるよ。ええ、  
奥さん泣いてよ、十八だつてね。ママゴトみたいな可愛いいい奥  
さんじやないか。

チヨイ .....

刑事2 わからんねえ。どうして素直になれないのかね、もつたい  
なうような奥さんもつて、何の不服もないのに。逢いたいと  
思わんかね。

クエン 家宅そうちされんですから、それで何も出てこないのなら  
私はわかりません。

刑事1 本当かね。

クエン ええ、こんなことになるなんて、考えてもみなかつたんで  
すもの。

刑事1 ジヤ友人はどんな友人がいた。

クエン それも知りません。

刑事1 元談じやないよ。君たち恋愛結婚なんだろう。

クエン 本当なんです。職場の人や、兄さん位しか。いつも一人だ  
けで逢つてたんですから。

刑事1 それらはみんなが挙げてあるがね。結婚してから誰も訪ね  
て来なかつた。

クエン たつた十九日しか二人は一緒じやなかつたんです。その上、  
夜おそく帰つてくるもんだから。

別の部屋で

刑事2 奥さんは何も彼も吐いたんだぞ。

チヨイ ジヤ、何も聞く必要ないじやないか。

刑事2 いや、君の口から言ってくれないと困るんだよ、民主主義  
の世の中だからね。君、今、政府は転向対遇政策をやつてるこ  
と知ってるかね。君が政府に忠誠を誓えば、奥さんは釈放され  
るし、君の一切の罪は帳消しにされるんだよ。

チヨイ 何の罪も犯していない以上、帳消しにでもらう必要はな

刑事2 元談言うなよ。アメリカの高官を襲撃することが罪になら  
ないかね。  
チヨイ 祖國への侵略の指導に来る親玉に鉄槌を下すのは罪ではな  
い。

刑事2 侵略？ そりや勝手に君たちが侵略といつてるだけだ。南  
ベトナムの自由を北からの侵略から守るためにアメリカ軍は來  
てるのだよ。こりや、政府の要請だよ。

チヨイ それなら、それでいいでしよう。  
刑事2 いや、そう思わんかね。  
チヨイ 思いませんねえ、（相手を制し）やめときましよう。これ  
以上無駄です。結局、いつものように興奮されるだけだ。  
刑事2 いや、今日のようすに素直に話してくれれば、僕は冷静だよ。  
むしろ、君の意見もききたいんだよ。同じベトナム人として  
ね。

チヨイ .....  
刑事2 今日はやつくり話しあおうじやないか。ねえ。  
チヨイ .....

刑事2 どうなんだ、また、だんまりかね。  
チヨイ ジヤ、冷静に聞くと言われるからいいましょ。あなたは

北からの侵略とか、南ベトナム政府の要請とか言われたが、  
そんなものがあるのですか。一九五四年のジユネーブ協定によ  
つて、十七度線も、南北のベトナム政府も暫定的にきめられ  
ただけなんです。朝鮮の場合と違いますよ。協定によれば、二  
年後の一九五六年に統一選挙が行われた筈だ。そうして、ベト

トナムは一つの国として新しく発足した筈だ。それはあなたで  
も認めるでしよう。

刑事2 （苦笑にして）まあ、いいだろう。それで。

チョイ その選挙を自分に不利と考えて拒否したのは誰か。ゴ・ジ  
エムであり、その選挙の拒否を指令したのは、その主人、アメ  
リカなのだ。それもあなたは認めるでしよう。

刑事2 .....

チョイ あなたは返事をしないが認めざるを得ないでしよう。

刑事2 ま、続けたまえ。

チョイ ジュネーヴ協定をふみにじるや、人民の間に統一の要求が  
強まってきたね。これは当然ですよ。それを、ゴ・ジエム  
政権は狂ったように弾圧をはじめたのだ。  
数十万の人民を投獄し、虫けらのように殺りきしたのだ。私の  
故郷、チュニエオツクでも大勢の人がつぶれたり、手のひらに針  
金をつき通されてどこともたくさん去られ、二度と帰って来な  
かつた。忘れもしないが私の十四才の時だ。

刑事2 .....

チョイ 統一を要求する人々には、その運命しかなかつたのだ。解  
放戦線の議長も、当時は平凡なサイゴンの弁護士だった。反政

府新聞と目されるものは一切閉鎖され、人民の民主的権利は一  
かけらも残されなかつた。残されたのは武力による抵抗しかな  
かつたのだ。武装斗争が始つたのは、それから二年後の一九五  
八年なのだ。北からの侵略なり、援助なりがあなたの言う通り  
あつたとしよう。しかし、人民の支援のない所でどうして武装  
斗争が拡大するのか。あなたにもわかつてゐるはずだ。止めま

しよう。

あなたは育されてきた。ただ一言いっておきましょう。祖国の  
統一を破壊する侵略者の元凶を、私たちは断固として処刑する  
ことに決定したのだ。ヴェトナム人民の名に於いて。私には帳  
消しにしてもらう罪はない。

刑事2 .....

チョイ それでもわからなければ、あなたはヴェトナム人ではない。  
毎日、毎日、この時間も、アメリカの飛行機からおとされるア

メリカ製のナバーム弾によって、焼き殺されているわれわれの  
同胞の苦しみがあなたにはわからないからだ。

刑事2 .....（なぐる）だまれ／＼気になるな。

チョイ 冷静にきくと云つた言葉はどうなつたんですか。連日の訊  
問でわかつたが、私の信念が強ければ強いほど、あなたたちは  
狂暴性を発揮する以外、手はないのだ。

刑事2 口がきけなくなるまで打ちのめせ！

轟の音。刑事の「瓜に針を打ちこむんだ！」の声。しばらく  
して異様な叫び声。

語り手A 凡ゆる拷問を加えて、クエン・バン・チョイの口から  
は組織の秘密は聞けなかつた。彼らはますます狂暴化した。ク  
エン・バン・チョイの信念を打ち破ることのみが彼らにとって  
残されたただ一つの自己回復であつた。救いであつた。そして、  
こうした非人道的な狂暴化が彼らの道徳となつていったのであ  
る。かつてのナチスがそうであつたように、かつての日本の軍

国主義者がそうであつたように。侵略者の、帝国主義者のモラルの崩壊である。

結果は非公開の裁判による死刑の言い渡しであつた。しかし、モラルの崩壊は、これで終らなかつた。

チヨイ 君は秋放されたのか。

クエン …… (うなずく)

チヨイ 君は僕の死刑決定のニュースを聞いてひどく泣いただろ。

クエン 平氣でいられると思う。

チヨイ 君にはなにも云つていなかつたから、うらんだことだらう。

クエン う、うん、愛してゐる。一そり、いつも愛しているわよ、

お父さんもお母さんもあなたのために一生懸命なの。弁護士の

ところへも行つたわ。

チヨイ 弁護士なんかやめてほし。金の無駄使いだよ。クエン、結婚してほんのわずかの間だつたけど、二人きりにもなれなかつた。許してほし。丁度結婚直前に任務の遂行がきまつたのだ。連日おそらくしき帰れなかつたのに、なにも云えなかつた。

ほかの女性だつたら、それこそ大さわぎだつたろう。

クエン でも、私も永い間牢に入れられ勉強したわ。強くなつたのよ。祖国や同胞のことを考へてゐる人々が一杯いて、色々教え励ましてくれたもの。

チヨイ クエン、僕も君も一人ほつちじやないんだよ、何千、何百

という先輩がひどい拷問を受けてきたのだ。それでも、その人達は革命の道からそれなかつた。

ヴエトナムの音楽が聞える。爆竹が鳴らされる。

僕は自分が拷問を受けていた最中、そのことばかり考えていた。

クエン、町には大ぜいの人が歩いてゐる。あの人達の中には夫を奪はれた人もたくさんいる。子供や兄弟を失なつた人だつて。君もやるんだ。どんな仕事だつていい。信頼されまかされるようにな。

クエン ええ、それはそうとどうアメリカは北を爆撃しはじめたの。

チヨイ 北を……、マクナマラが来るたびに戦争は拡大する。どんなことをしてもヴェトナムの独立は奪えない。自滅を求めるようなもんだ。クエン、まだ会いにこられるようだつたら、いろんなニュースを聞かしてくれ。

クエン ……

チヨイ 泣いちやいかんよ。

クエン また会えるかしら。

チヨイ 必ず会えるとも、信ずるのだ。

クエン ……

チヨイ クエン、子供はできた。

クエン …… (急に首を振りながらむせび泣き) できないのよ。

チヨイ クエン、頑強に生き、頑強に耐えしのばなくちやならない。

デイエンビエンフーでフランス軍を破り、僕の町からもフランス軍が撤退はじめた。十一年前、十三の時だつた。僕は今でも目に見えるように覚えてゐる。

「号外／号外／クエン・パン・チョイの公開銃殺決定」

町中、夜通しで飾りたて、夜通しで踊り狂つたもんだ。皆、粗末な晴れ着をきて、ホーおじさんの像をつくり、解放軍を待ちかまえた。解放軍が入つてくると、もう、ものも云えないと。みんな泣いてた……。老人は口をバクバクさせながら、ボロボロ泣いているんだ。僕たち子供は、くるいまわり、解放軍に抱きつく、肩馬になる。クエン、歌をうたつて入ってくる解放軍も涙で顔はびしょぬれだつたよ。クエン、長い屈辱の歴史から解放され、ヴエトナム人が、胸をはつて、この大地は俺たちのものだ、俺たちの祖国だといえる感激の涙なんだよ。もう一度その日を迎えないちやならない。クエン、それまで頑強に生きていてくれ。

語り手B クエンはあらゆる知人の間をかけずりまわった。残された途は五千ビアストルの金をかき集めて弁護士に死刑執行延期の凡ゆる手段を求める以外なかつた。夫が何といおうと、どんなかすかな望みでもいいあるうちは、一日でも、一時間でもいい、刑の執行延期を願つた。しかし、弁護士から自信のある回答はなんら得られなかつた。

クエンは絶望の底に沈み、家に帰つた。

放心状態のクエンが現われる。椅子に腰をおろす。しばらくしてヴエトナムの民謡を口ずさむ。歌はつまり、突然

語り手C ところがクエン・パン・チョイは、この面会を最後に、一週間後に死刑執行と発表された。サイゴンの新聞はこのニュースをトップにのせた。

クエン チョイ チョイ  
チョイの声 歌をうたうんだ。苦しみに耐えることを身につけるんだ。僕の好きだつたマンドリンをひいてくれよ。クエン。よし、僕がひいてやろう。

「号外、号外／コントリー橋に地雷を埋設したクエン・パン・チョイの公開銃殺決定！」

「号外／号外／クエン・パン・チョイの公開銃殺決定！」

母 クエン チョイは死なないよ。  
クエン ……もう、いいの。お母さん。私、耐える、耐えるわ。

C 母 何言つてゐる。ほら、クエン、新聞にのつてゐるよ。こんなに大きくなる。公開銃殺／公開銃殺／まさにナチスの再現である。公開銃殺、それは人民に対するみせしめであり、侵略者の野蛮なあがきである。公開銃殺。

母 何言つてゐる。ほら、クエン、新聞にのつてゐるよ。こんなに大きくなる。公開銃殺／公開銃殺／まさにナチスの再現である。公開銃殺、それは人民に対するみせしめであり、侵略者の野蛮なあがきである。公開銃殺。

ヴェネズエラって南米だそうだよ。そのヴェネズエラの解放戦線が、アメリカの空軍大佐を人質にしたんだって。それで、チヨイとの交換を要求して、もし、要求に応じなければ、チヨイを銃殺した一時間後に、そのスマールというアメリカの大佐を銃殺すると言うんだって、もう、サイゴンの町は、これで大騒ぎだよ。

クエン そんな、ドラマじやないの。

母 ほら、どの新聞にも書いてあるんだよ。

クエン ヴェネズエラ。

母 南米なんだそうだよ。ここにも解放戦線があるんだって。どうしてチヨイのことがそんなところでわかるんだろうね。南米なんて。クエン、チヨイは助かっただのよ。

クエン .....

語り手C 奇蹟とでも云うのだろうか。いや、奇蹟でも何んでもない。同じアメリカ帝国主義に抵抗する人民の力が、アジアと南北アメリカで連帯したのである。はるか海の彼方から、地球の中心を怒りの矢をもって貫き、アジアと南アメリカの人民の力が連帯したのである。ささくれだつた腕と腕とが固い鉄の鎖りでつながれたのである。

サイゴンの町はそのニュースに湧きに湧いた。新聞はとぶように売れた。政治的めざめた人々も、目覚めない人々も、ヴェトナム人は学生から娼婦に至るまで、かつさいを叫んだ。クエン・バン・チヨイを収容した中央刑務所も囚人から看守まで歌聲をあげ、歌をうたいはじめたのである。こんな痛快なことが

あるだろうか。南アメリカのヴェネズエラの人民がサイゴンの一愛国者の命を救うことができるなんて。

さすがのアメリカ政府も、ジョンソン大統領自ら、ヴェネズエラの民族解放戦線の要求を認めるなどを声明せざるを得なかつた。そしてサイゴンに指令はくだつた。

ヴェネズエラ民族解放戦線は相互釈放の条件により、十月十四日、スマール大佐を釈放した。

ところが、翌十五日、卑劣にも、帝国主義者は前言をひるがえし、クエン・バン・チヨイをサイゴンで銃殺したのである。帝國主義者には、もはやモラルのひとかけらも存在しないのだ。

帝國主義者は斜弾するものであり、信ずるものではない。

両うでをしばられた、クエン・バン・チヨイが現われる。

語り手E 一九六四年十月十五日

すみきった秋の日の朝、チーホア刑場で、獄卒にはさまれ、教戒師を従え、すすみゆく、きみ

その名は、とこしえにいろあせないであろう。

傷ついたきみの両足は、痛みによろらく

それでもきみは胸をはって歩をはこぶ。

その白衣は、あくまできよく、  
やせた身体は、目前の死にもひるんではいなかつた。

やとわれ死刑執行人ー おかかるシヤーナリスト。

銃剣をつけた二列の精鋭

きみは、しづかに歩をはとび、毅然として正面をみつめる。  
まるできみが、逆に敵を告発するかのように。

きみがふみしめる草はみずみずしく、  
きみのいのちは、その縁のゆによみがえる。

それは、きみが必死に求めた、  
解放の大地であり、生命の母体である。

刑事 最後に言いのこととは。

チヨイ ただ、残念に思うのは、私が侵略者の元凶に断罪を下すこと  
ができなかつたことだ。私は少くとも罪を犯していなさい。

死刑執行人、目かくしなしようとする。

チヨイ やめてもらおう。僕らの愛してやまない、祖国ベトナム  
の大地を見なければならぬ。見る権利がある。

「前列、おりしけ！」

「前列、撃て！」

一斉に発射される小銃の発射音。

チヨイ アメリカ帝国主義をたおせ！

「後列、撃て！」

一斉に発射される小銃の発射音。

チヨイ ホー・チン・ミン万才、祖国ベトナム……

グエン・バン・チヨイは崩れるように倒れる。

語り手 十発のアメリカ製鉄弾

ほとばしる鮮血がいま

きみがねむりにつかんとする大地にしたたる。

きみのまなこはとざされ、うらみの声もきえた。  
ねむりにつく天使のように、きみは息をえた。

ゲエトナムの旗が死体にかぶされる。ファン・ティ・クエン  
が出てくる。しづかに死体にひざまづく。次第に後に群像が  
シルエットで浮び、ゲエトナム解放戦線とヴェネズエラ民族  
解放戦線の旗がひるがえる。

グエン・バン・チヨイよ、もう君はこの世の人ではない。  
だが、きみよ、知つてほしい。

きみの血は必ずつぐなわれるのだと。

これはりさけるようなゲエトナム人民の声を。

きみをひとおしむ、遠いベネズエラのカラカスの兄弟は

凶悪なアメリカ軍将校をつかまえ

きみとの交換を条件に釈放した。

しかし、きみのまぶたは閉ざされた。

きみの、そのうつくしいまなこは、

南ベトナムにたぎりたつ炎を、

もうみることはできなく、

だが、きみの死は無駄ではない。

きみの心にもえたぎった炎は、

南アメリカとアジアを結び、

ベネズエラと南ベトナムの人民を包み

最後の解放を奪いとるのだ。

“ほくのことばを忘れないでおくれ”

ああ、グエン・バン・チヨイよ、

きみの叫びは、わたしたちの胸に灯をともす。

敵を前にして、おめず、おくせず、

すべてのものが栄光の中に生き、

栄光の中に死ぬのだ。

ああ、わたくしのグエン・バン・チヨイよ

ここに掲載された作品を上演する場合には、必ず作者の許可を得てください。連絡先は次のとおりです。

### 掲載作品の上演について

ここに掲載された作品を上演する場合には、必ず作者の許可を得てください。連絡先は次のとおりです。

劇団はぐるま 岐阜市西野町一

京浜協同劇団 川崎市上平間一二七五

劇団労働芸術劇場 東京都品川区南大井一一四一一六

舞芸小劇場 東京都豊島区池袋一一一一三八

なお、東リ演内での脚本使用料の取扱いについては、まだ規定されていませんが、当面、日本演劇協会で決めた脚本使用料（上演一回につけて、無料の場合）一幕200円・多幕劇400円、二〇〇円、有料の場合）一幕200円・多幕劇400円）を適用するのが妥当だと思ひます。

このことは、われわれの貴重な書き手を支えていく立場から必ず守りましょう。

## アンケートに

### そえてのお願い

機関誌「東リ演」の内容を充実させることは、ますます重要ななっています。各劇団の活動が充実すれば「東リ演」も充実する」と考へることは、半分しか正しくありません。東リ演という組織自体が、劇団の独自活動の発展とあわせて、意識的な東リ演活動の側面での発展をかちとつてはじめて、前進しうるよう、機関誌への目的意識がつよくならなければ充美できないのだ、といえます。

現在でている演劇雑誌の中で、われわれの演劇労働の糧になる内容が、いつたい何頁あるでしょう。号をおうごとに、そういう内容は欠落していっています。われわれはそのことに不満を感じながら、欠落に割れていっています。つまらないから、読まない」という消極的な抵抗をのことして。

その馴れや消極性の主因は、劇団の独自活動による充足にあります。観客との正しい対応をふまえて活動しているなら、今日大きく誤することはないし、充実もえられます。しかし、明日はどうかを考えるとき、われわれには東リ演という組織が必要になつたし、組合の血管としての機関誌を考えなければな

らなかつたのです。日本中の仲間がどうたかっているのか、それは知らなければよくない。そこが欠落してはわれわれの運動が、点の運動になってしまします。

ことし五冊でた「東リ演」がつまらなくなことは云々ません。糧になる内容だととも強弁できません。しかし、一点いえることは、そしてそれこそ重要なのですが、これがわれわれの機関誌だ、ということです。自由にできる、ということです。そうです、つまるようにも、糧になるようにも、ほしくままでできるのです。

「東リ演」が、そうでありながら、つまらなかつたり、糧にならなかつたりするのを、編集者のせいにしてしまるのは、自分のことですが、正しくありません。あるいは百%正しくありません。しかし、いくつか考える必要があることが残っています。

- (1)企画内容が、読む人たちの要求とかみあつていないので、手が、狭いしかた苦しいし書き手がきまつていて、バラエティが乏しい。
- (2)原稿依頼が、不徹底であり時間的ゆとりがまだ不足している、二号先位まで

がまだ不足している、二号先位まで

刊行の諸過程に反映しかねない。つまり非科学的、非合理的な側面があらわれる。

- 編集者に関する問題は、厳密にはもっとあるかもしれません。しかし一方には、依頼をはたしてくれなかつた個々の、あるいは劇団の問題があります。われわれは、全く言語同断に忙しいし、あまりグチると「東リ演」なんぞクソくらえーといわれても困るので、これ以上書かないことにしますが、集団的に論議してほしいのです。発行していく以上、否応なくついてまわることだからです。

各劇団の協力で、第二年度の「東リ演」を効率の高い武器にしていくこと、編集者にとてもこれ以上のよろこびはありません。たたかいの発展を祈ります。

---

発行・機関誌「東リ演」刊行所

川崎市上平間1275 京浜協同劇団内  
電話 川崎 (044) 8815 番

印刷・クロカワ印刷所

川崎市中丸子582番地  
電話 中原 044 ④ 6094 番

---